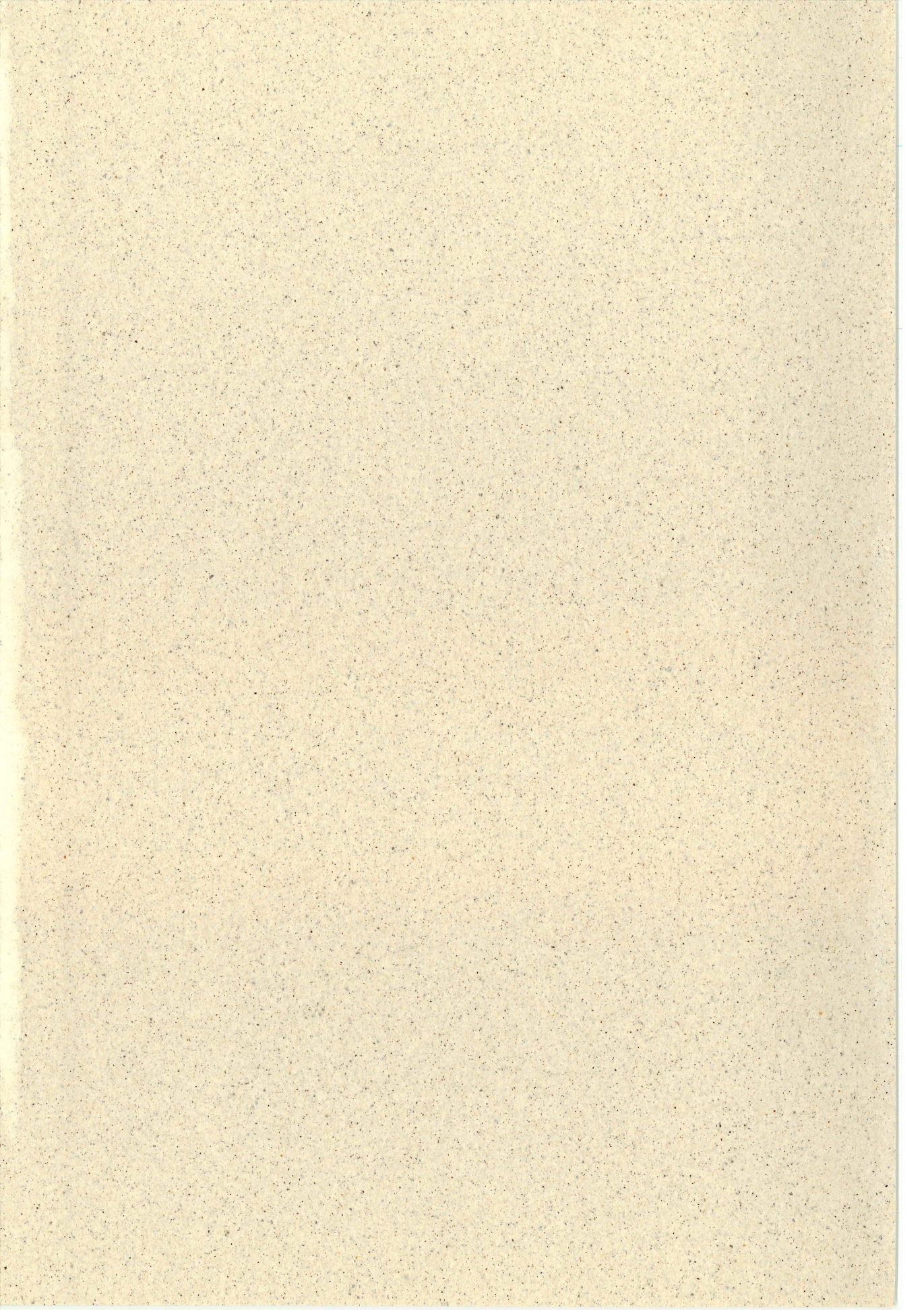


町田小沢遺跡

有限会社戸部組産業廃棄物中間処理施設
設置に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1990

沼田市埋蔵文化財発掘調査団



町田小沢遺跡

有限会社戸部組産業廃棄物中間処理施設
設置に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1 9 9 0

沼田市埋蔵文化財発掘調査団

序 文

ここ数年における沼田市は、関越自動車道建設工事をはじめ、大規模な土地改良事業、工業団地の造成などの各種開発事業が計画され、実施されつつあります。これらの事業区内には埋蔵文化財が存在することが多く、その保護対策が急務となっております。

今回の発掘調査は、有限会社戸部組の産業廃棄物中間処理施設の建設予定地が遺跡にあたるため、やむなく事前に実施したものであります。

この地区の付近では、関越自動車道や工業団地の事前調査として、石墨遺跡や戸神諏訪遺跡などの大規模な発掘調査が実施されており、貴重な成果が次々と発表されております。本遺跡の成果もこれらとあわせ、利根・沼田地方の古代史解明の重要な資料となることでしょう。

最後になりましたが、本調査実施にあたり終始御指導・御協力いただきました関係者の皆様に心から厚く感謝の意を表し序文といたします。

平成2年3月

沼田市埋蔵文化財発掘調査団

団 長 松 井 誠 二

例 言

1. 本報告書は有限会社戸部組の産業廃棄物中間処理施設設置に係る埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は群馬県沼田市町田町字小沢1962番地に所在する。
3. 発掘調査は平成元年11月20日～12月27日まで実施し、整理作業は平成2年3月まで行った。
4. 発掘調査は、沼田市埋蔵文化財発掘調査団が、有限会社戸部組の委託を受けて実施した。
5. 発掘調査体制は以下の通りである。
 - ・教育長 佐藤国利 ・教育次長（調査団長）松井誠二 ・社会教育課長（調査団幹事兼事務局長）藤井章二 ・文化財保護主事（調査担当）都丸 肇 ・社会教育主事（調査担当）小池雅典 ・主事 宮下昌文
6. 発掘調査作業員は次の通りである。（敬称略）

石塚タミ、大嶋はる、岡村はま江、川端千恵子、小林恒夫、佐藤こと、佐藤芳之助、須田弘子、竹之内信子、高橋久子、高橋洋子、田辺道雄、角田和喜、中村ひめ、根岸平兵衛、野上巳津江、笛木栄子、保坂隆子、堀越いと
7. 本書の編集・執筆は、都丸が行った。
8. 遺物の実測・図版作成は次の作業員が行った。

阿部たみ子、川端千恵子、倉品節子、佐藤文江、園部純子、竹之内信子、高橋朝子、高橋洋子、田中八千代、常山操子、平井初江、笛木栄子、保坂隆子、保坂照子、真下君子、真下智恵子、牧野信子、水野さかゑ
9. 本書に掲載した遺構及び遺物写真は、小池・宮下・都丸が撮影した。
10. 本遺跡の資料は、沼田市文化財調査事務所収蔵庫で保管している。
11. 発掘調査及び本書の作成において、次の方々から御指導・御協力をいただいた。記して感謝申し上げます。（敬称略）

有限会社戸部組、群馬県教育委員会文化財保護課

凡 例

1. 第1図に使用した地図は、25,000分の1の国土地理院発行の地形図(沼田・後閑)を使用した。
2. 遺構図中に掲載した断面基準線の数字は海拔高であり、方位は磁北を表わす。
3. 挿図の縮尺は以下のように統一した。

全体図1/400 住居址1/60 炉・カマド1/30 遺物1/3

目 次

序 文
例 言
凡 例

I 調査に至る経緯と遺跡の環境	2
1 調査に至る経緯.....	2
2 遺跡の位置と環境.....	2
3 周 辺 の 遺 跡.....	2
II 調査の方法と遺跡の概要.....	6
1 調 査 の 方 法.....	6
2 遺 跡 の 概 要.....	6
3 基 本 層 序.....	6
III 検出された遺構と遺物.....	7
1 弥 生 時 代.....	7
2 平 安 時 代.....	17
IV ま と め	45

写 真 図 版

I 調査に至る経緯と遺跡の環境

1 調査に至る経緯

有限会社戸部組が産業廃棄物中間処理施設を設置することになり、平成元年4月にその概要が市教育委員会に提出された。教育委員会は、設置予定場所が遺跡の包蔵地であると予想されたため、その旨を会社に伝え、その保存方法について協議することとなった。遺跡の範囲や性格を把握するため市教委で試掘調査を実施したところ、住居址と推定される落ち込みや土器片を検出し、約2000㎡の施設予定地全域に包蔵地が存在することが判明した。引き続き会社と協議をした結果、予定地全域を調査することで合意が得られた。発掘調査は市埋蔵文化財発掘調査団が会社側から委託を受け、実施することになった。遺跡の名称は字名をとって町田小沢遺跡と命名した。

2 遺跡の位置と環境

町田小沢遺跡は、沼田市のほぼ中央に所在する。この地区は、薄根川と四釜川に挟まれた段丘面で、北を戸神山、東を峰丘陵に囲まれた東西約2km南北約1kmの広大な平坦地である。遺跡は段丘面の南東にあり、小沢川の崖端にある。標高は405m～410mで、小沢川からの比高差は6mを測る。現在の台地上は畑として利用されている。

3 周辺の遺跡(第1図)

旧石器時代の遺物が確認されているのは周辺地では少なく、戸神諏訪遺跡(4)からナイフ等が出土しているのみで、縄文時代になると遺跡数も多くなり、各地で遺物が確認されるようになる。寺入遺跡(11)からは、中期を中心とした住居跡等が多数の遺物とともに検出されており、石墨遺跡(5)・戸神諏訪遺跡からも住居跡や落とし穴が確認されている。

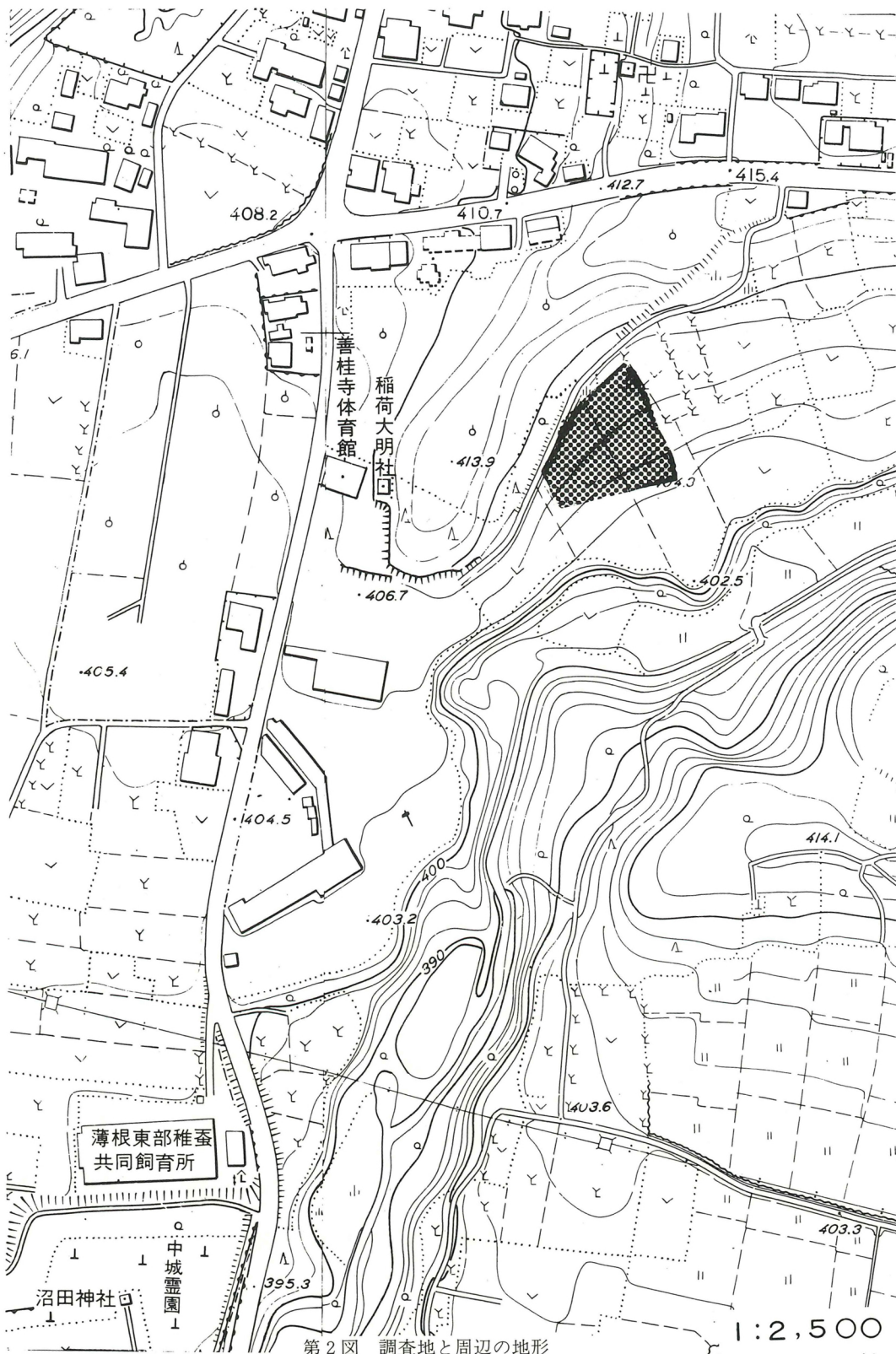
弥生時代になると、一時遺跡は確認されなくなるが、後期の後半になると各地で集落跡が検出されるようになる。前述した戸神諏訪遺跡・石墨遺跡をはじめ鎌倉遺跡・戸神吉田遺跡(6)・町田小沢遺跡(1)等を挙げることができる。

古墳時代は、前期には前時代の遺跡と重複していることが多いが減少傾向にある。戸神諏訪遺跡・石墨遺跡が代表例である。後期の住居跡は石墨遺跡から検出されているが、ほかからはほとんど発見されていない。古墳は、ほとんど後期に属し山裾に築造されることが多い。奈良古墳群は現在でも多くの古墳が残っており、貴重な存在である。

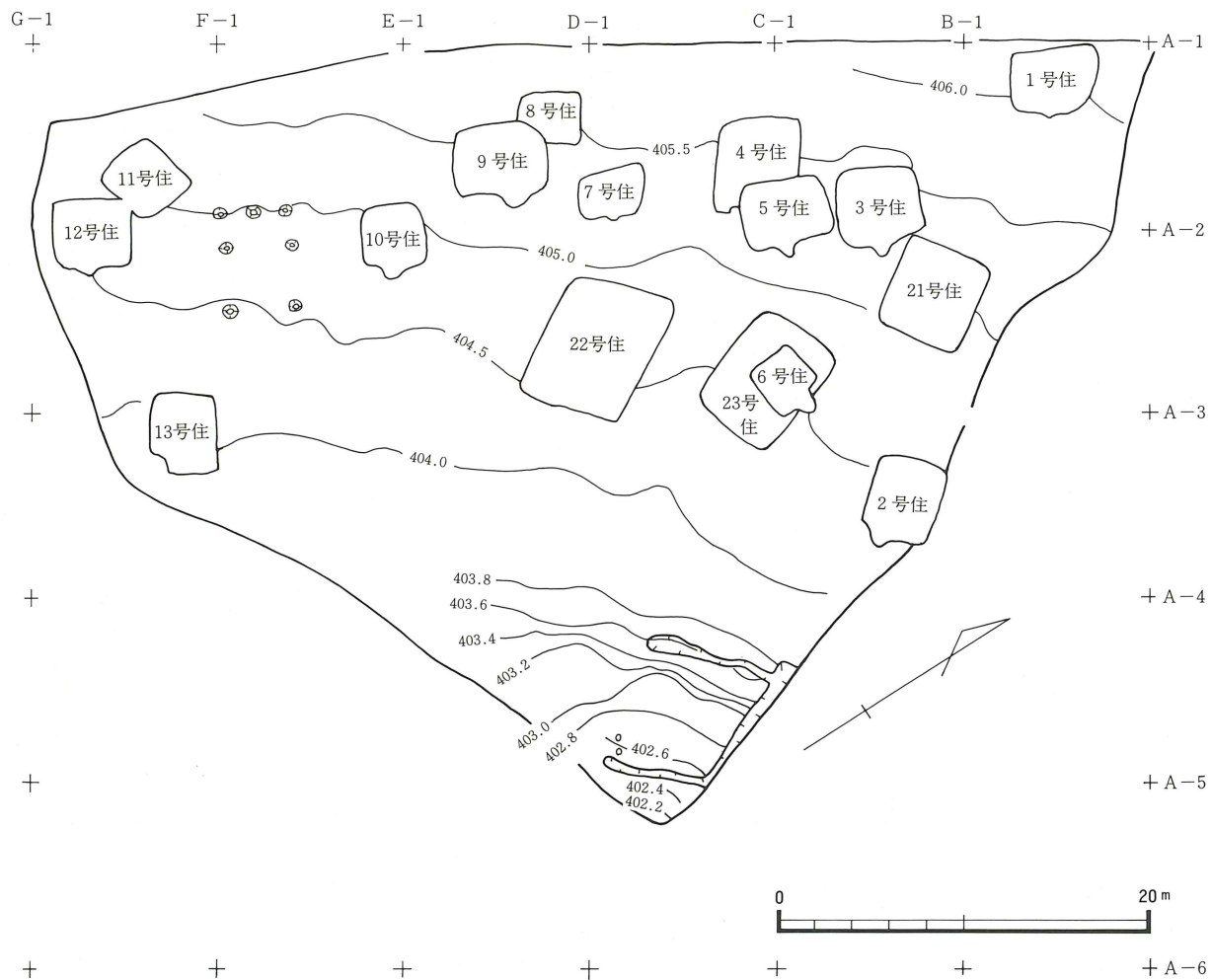
奈良時代の遺跡は周辺地では少なく、平安時代にはいり増大する傾向が認められる。戸神諏訪遺跡・石墨遺跡・土塔原遺跡(3)・町田小沢遺跡から集落跡が検出されている。



第1図 町田小沢遺跡の位置と周辺の主な遺跡



第2図 調査地と周辺の地形



第3図 遺構配置図 (1/400)

II 調査の方法と遺跡の概要

1 調査の方法

会社側との協議の結果から、処理施設予定地全域について、重機により耕作土を剥いてから調査を進めた。検出された遺構と遺物については、遺跡西側を走る道路際にある杭を基準に10mごとに北からA～G、西から1～4までのポイントを設定して1/20で、全体図は1/100で20cmのコンタを入れて作図を行った。

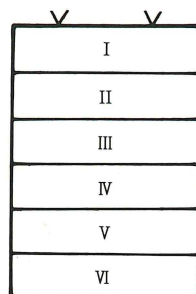
2 遺跡の概要

本遺跡からは弥生時代後期後半の住居跡3軒と平安時代の住居跡13軒が検出された。さらに遺跡の南端より、浅間B軽石の下に水田遺構らしい土層の堆積が認められたが、遺跡の最も端にあたるため、畔などのはっきりした確証はつかむことができず、今後の調査をまちたい。また、各遺構の遺存状態は良好であったが、平安時代の住居跡については、掘り込みの浅いものもあった。出土遺物については、該期の資料がほとんどであるが、三彩の小壺の蓋と青銅製の丸柄が2個平安時代の住居跡より発見されたことと弥生時代の鉄鍬が弥生時代の住居跡の覆土より発見されたことが注目される。

3 基本層序

本遺跡は、西側から小沢川にかけてなだらかに傾斜し、崖となって小沢川に落ち込んでいる。小沢川よりの部分はかつては低湿地になっており、水田として利用されていたと思われる。そこで、本遺跡の基本層序としては、住居跡のある遺跡中央部を取り上げてみた。

- | | | |
|------|--------|----------------------|
| I層 | 表土 | 軽石を含み灰褐色を呈する。 |
| II層 | 暗褐色土 | 浅間B軽石を多く含む。 |
| III層 | 暗褐色土 | 榛名二ツ岳軽石を多く含む。 |
| IV層 | 黒色土 | 弥生時代の住居跡はこの層中から掘り込む。 |
| V層 | ローム漸移層 | |
| VI層 | ローム層 | |



第4図 遺跡基本層序

III 検出された遺構と遺物

1 弥生時代

21号住居跡（第5～9図）

A-2・B-2グリットに位置する。主軸をほぼ南北にとった長方形プランを呈し、南北5.00m東西4.45mを測る。確認面からの深さは北壁側で70cmである。堅くよく締まった床面であるが、廃棄直後に掘られたらしい土壌が5ヶ所ある。土壌を掘った時に出了と思われるロームが床面直上を覆っていた。住居北側において、炭化物が床面に密着して確認されている。P₁～P₄が主柱穴で炉は北側柱穴のやや外側に位置し、南縁に炉石を有する。炉の位置と反対側の壁際には入口施設用ピットが検出されている。貯蔵穴は確認されなかった。

本住居に伴う遺物はほとんどなかったが、土壌の中からは4号土壌出土の壺をはじめ、かなりの量の出土があった。

22号住居跡（第10・11・12図）

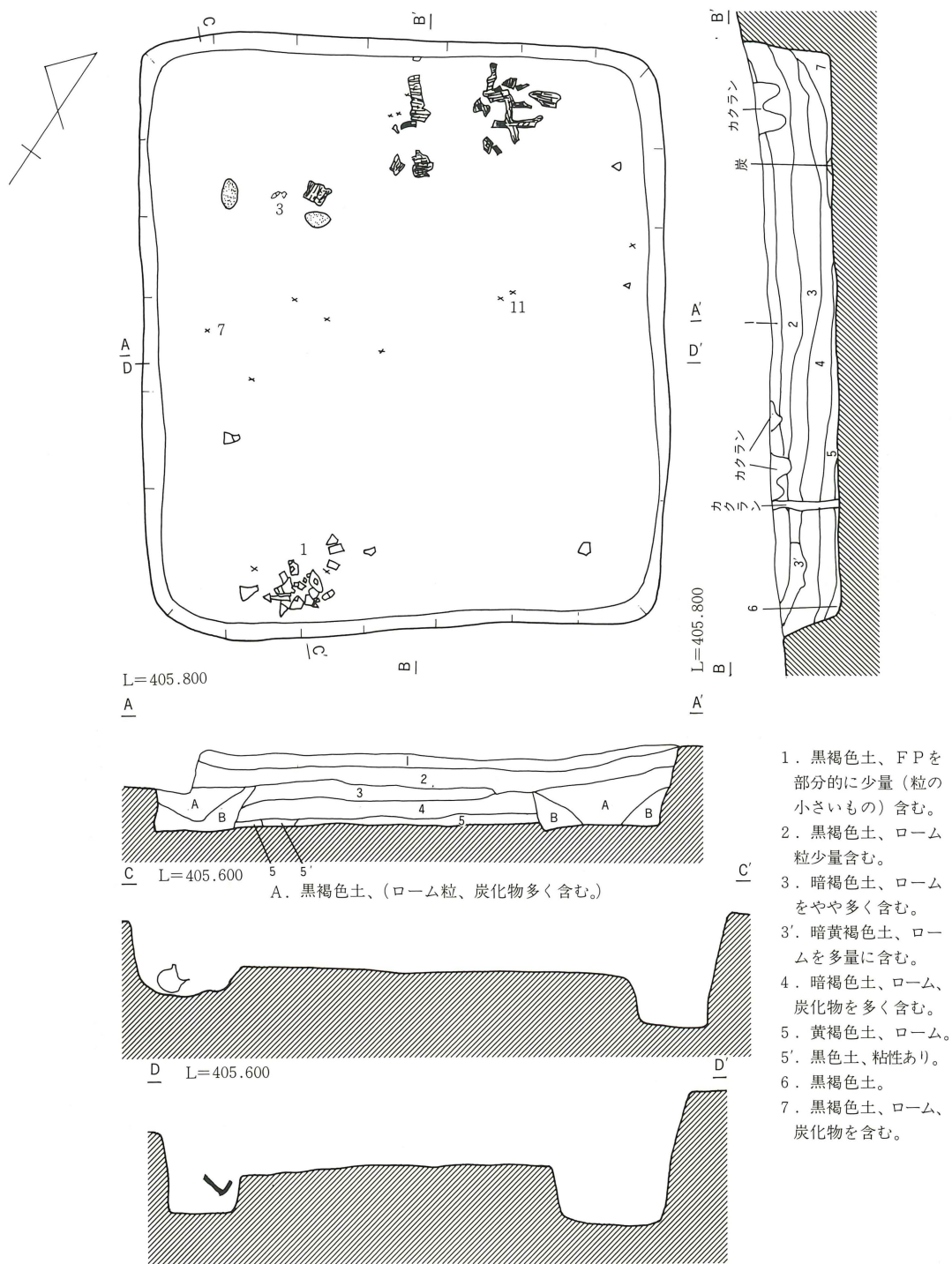
C-2・D-2グリットに位置する。主軸をほぼ南北にとった長方形プランを呈し、南北7.70m、東西5.20mを測る。確認面からの深さは北壁中央で70cmであるが、南側では殆ど掘り込みがみられなかった。P₁～P₄が主柱穴で、炉は北側主柱穴間から外側にかけて位置し、南縁に炉石を有する。炉の位置と反対側の壁際には一対の入口施設用のピットが検出されている。

出土遺物は比較的多く、小形台付甕や小形甕、坏等が出土している。また、床面から15cmほど浮いた状態で鉄鏃も出土している。

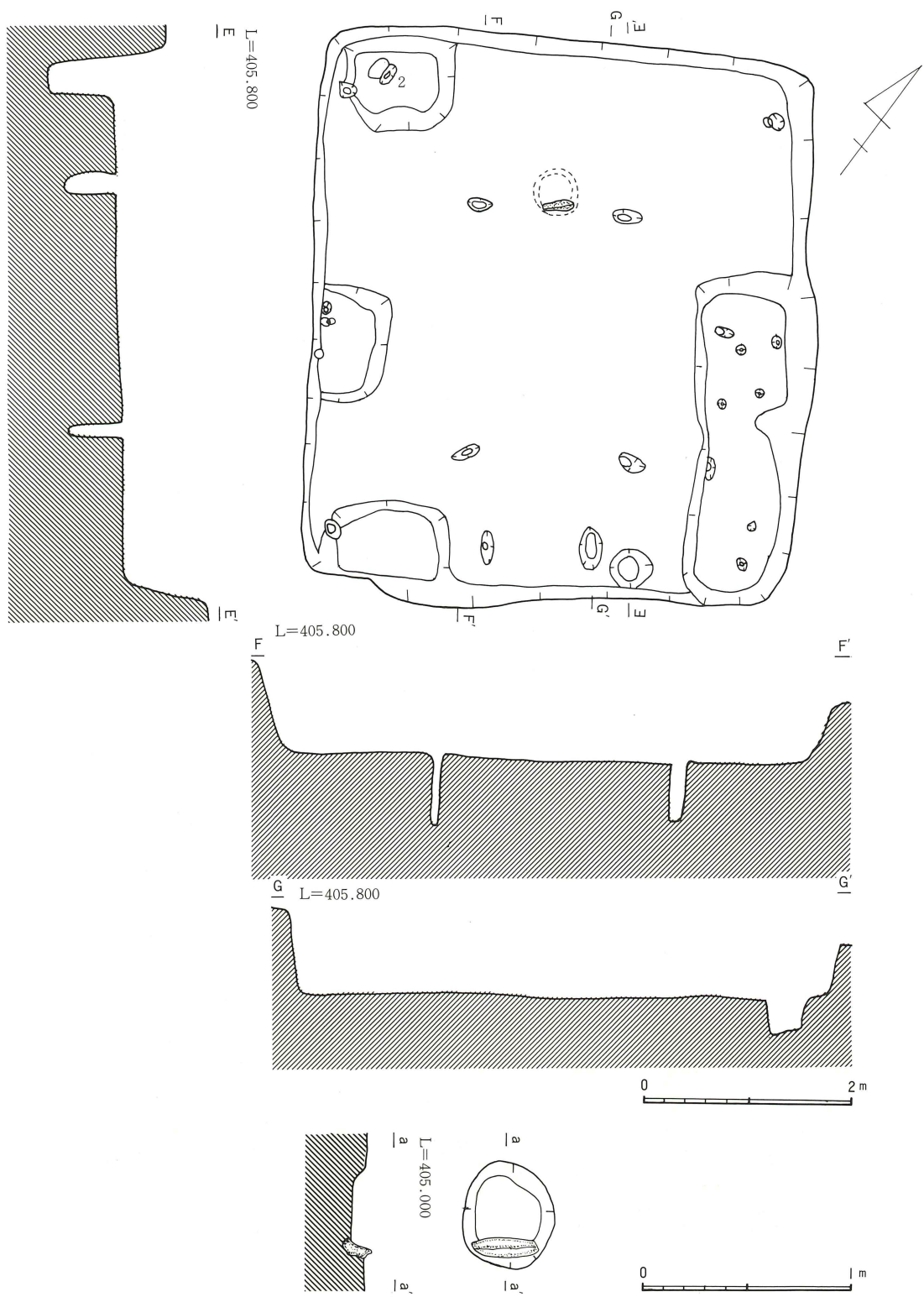
23号住居跡（第13・14図）

B2・B3・C2・C3グリットに位置する。主軸をほぼ南北にとった長方形プランを呈し、南北6.30m、東西4.50mを測る。確認面からの深さは北壁側で70cmである。住居北半分の大部分を平安時代の6号住居跡によって切られている。P₁～P₄が主柱穴で、炉は6号住居跡によって切られていたらしく検出できなかった。

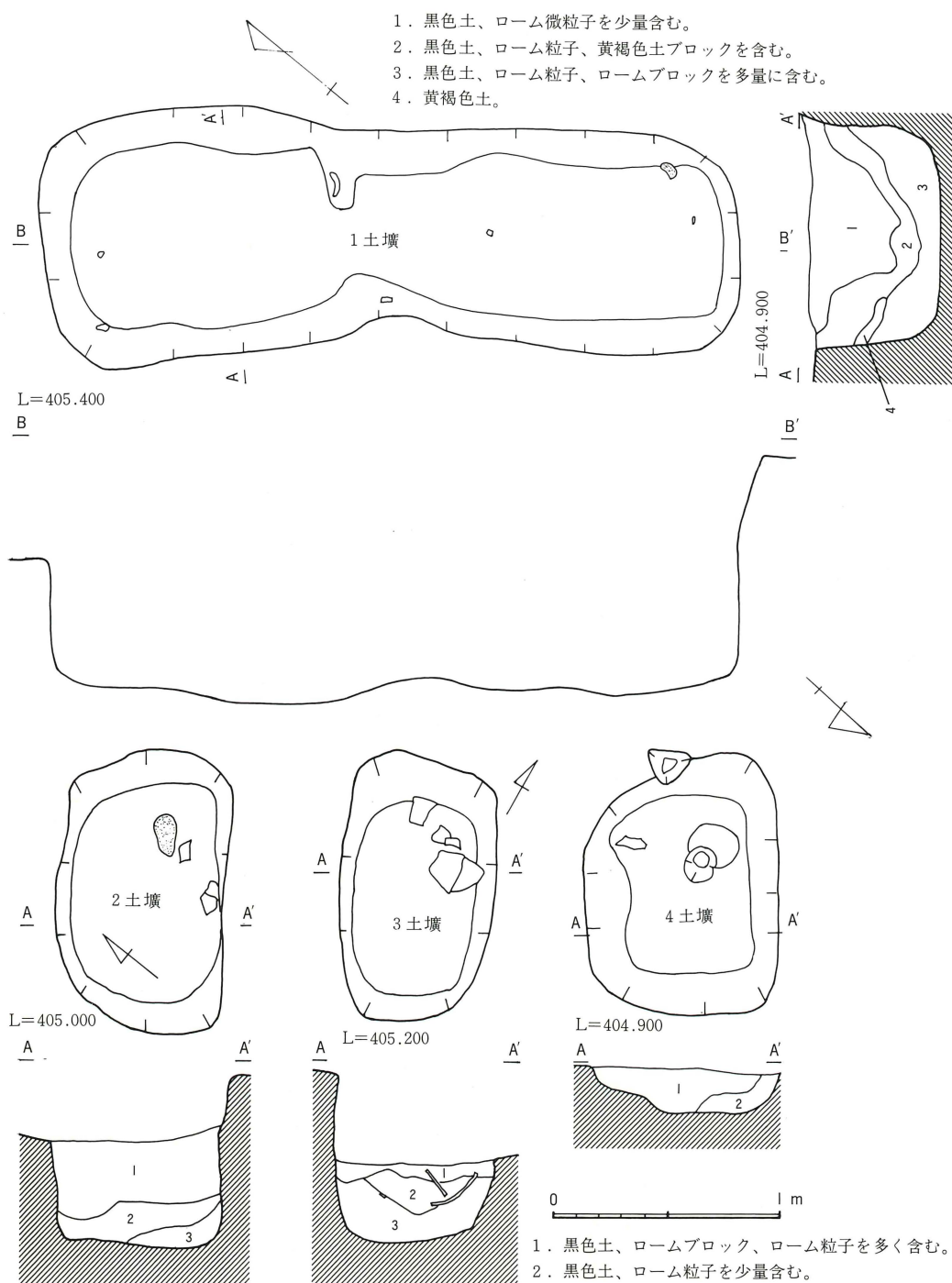
出土遺物はごく僅かで、南東の隅より甕の下半分が出ているくらいである。



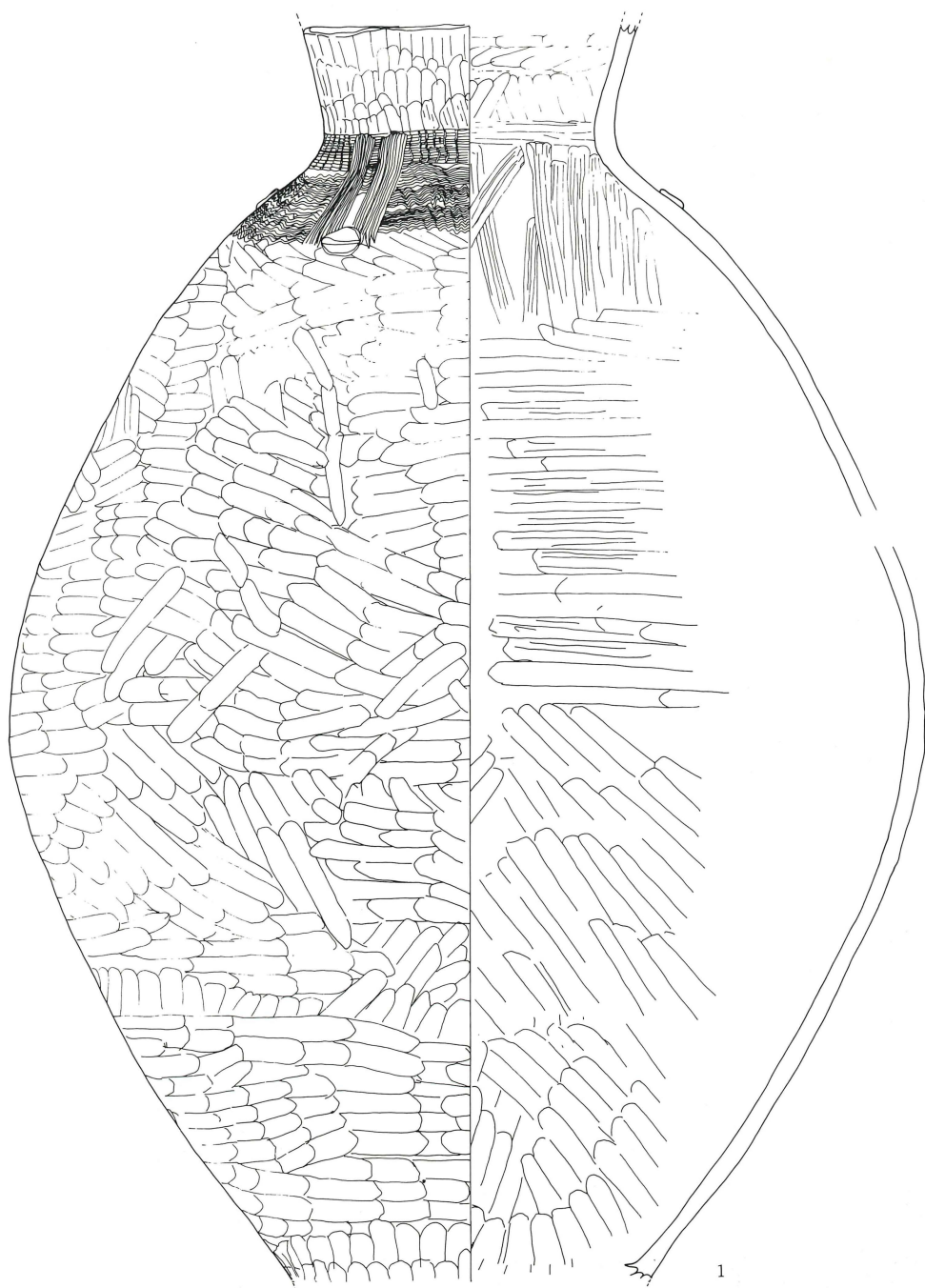
第5図 21号住居跡 (1/60)



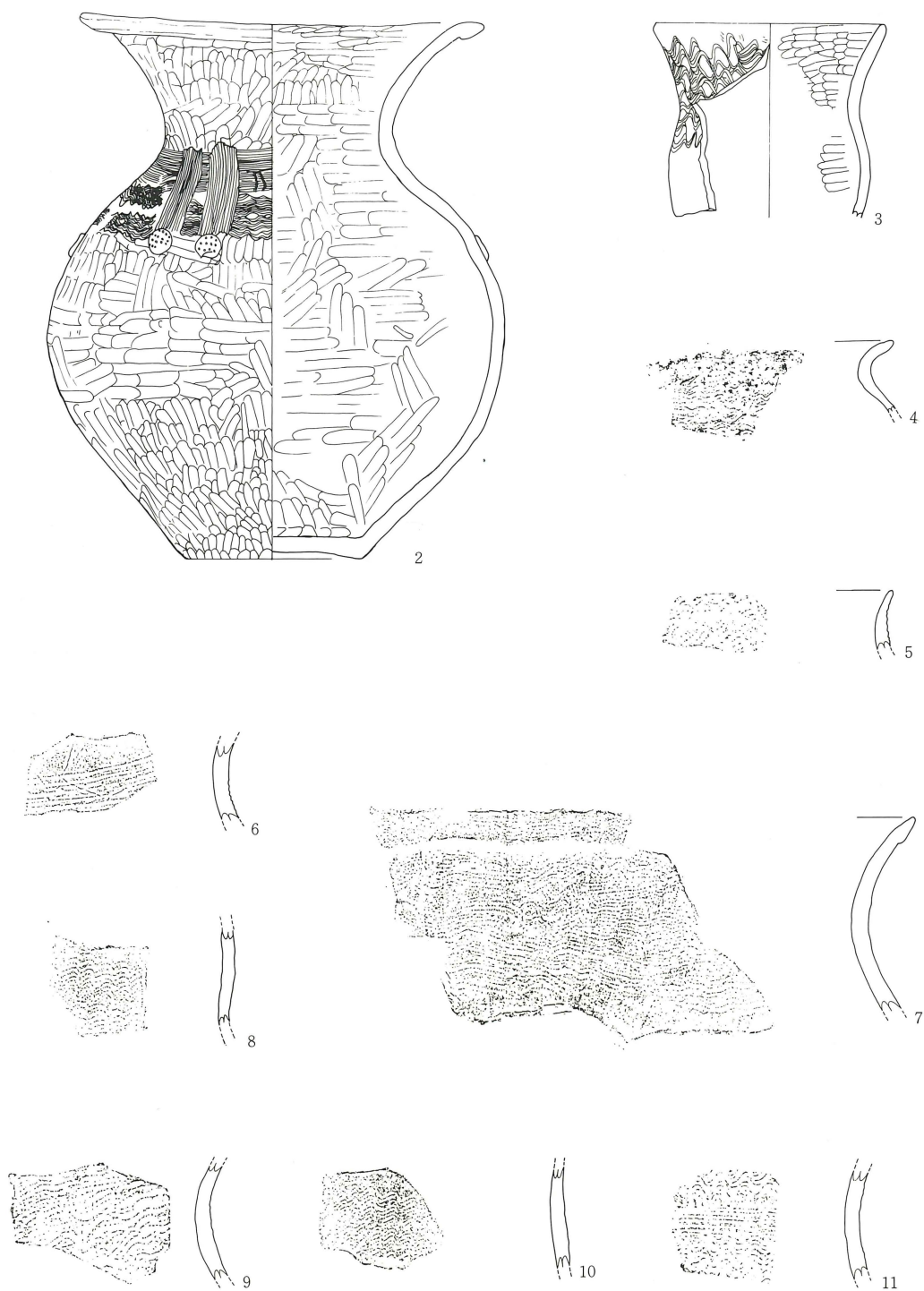
第 6 図 21号住居跡掘り方 (1/60) 炉 (1/30)



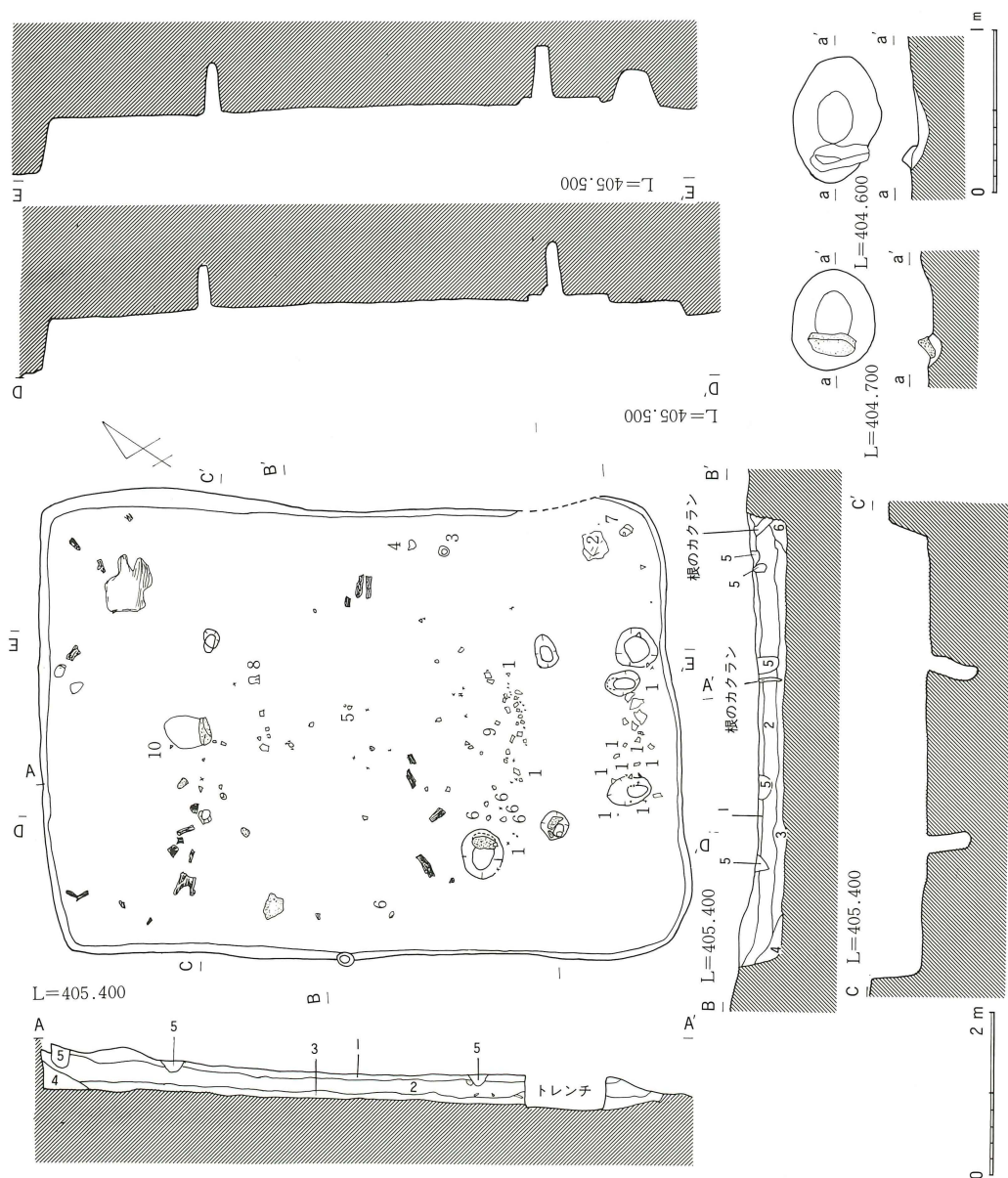
第7図 21号住居内土壌 (1/30)



第8図 21号住居跡出土遺物 (1/3)

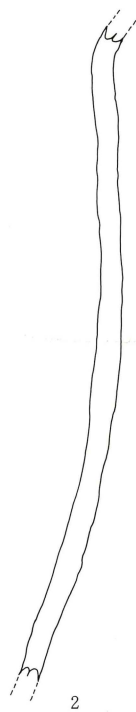
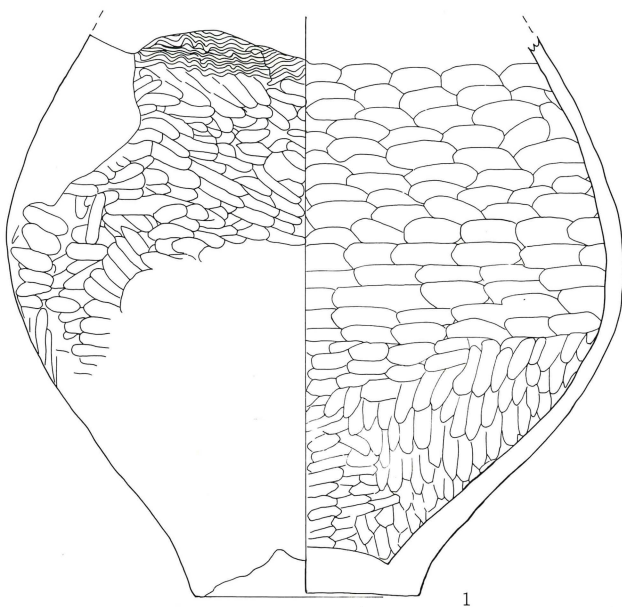


第9図 21号住居跡出土遺物 (1/3)

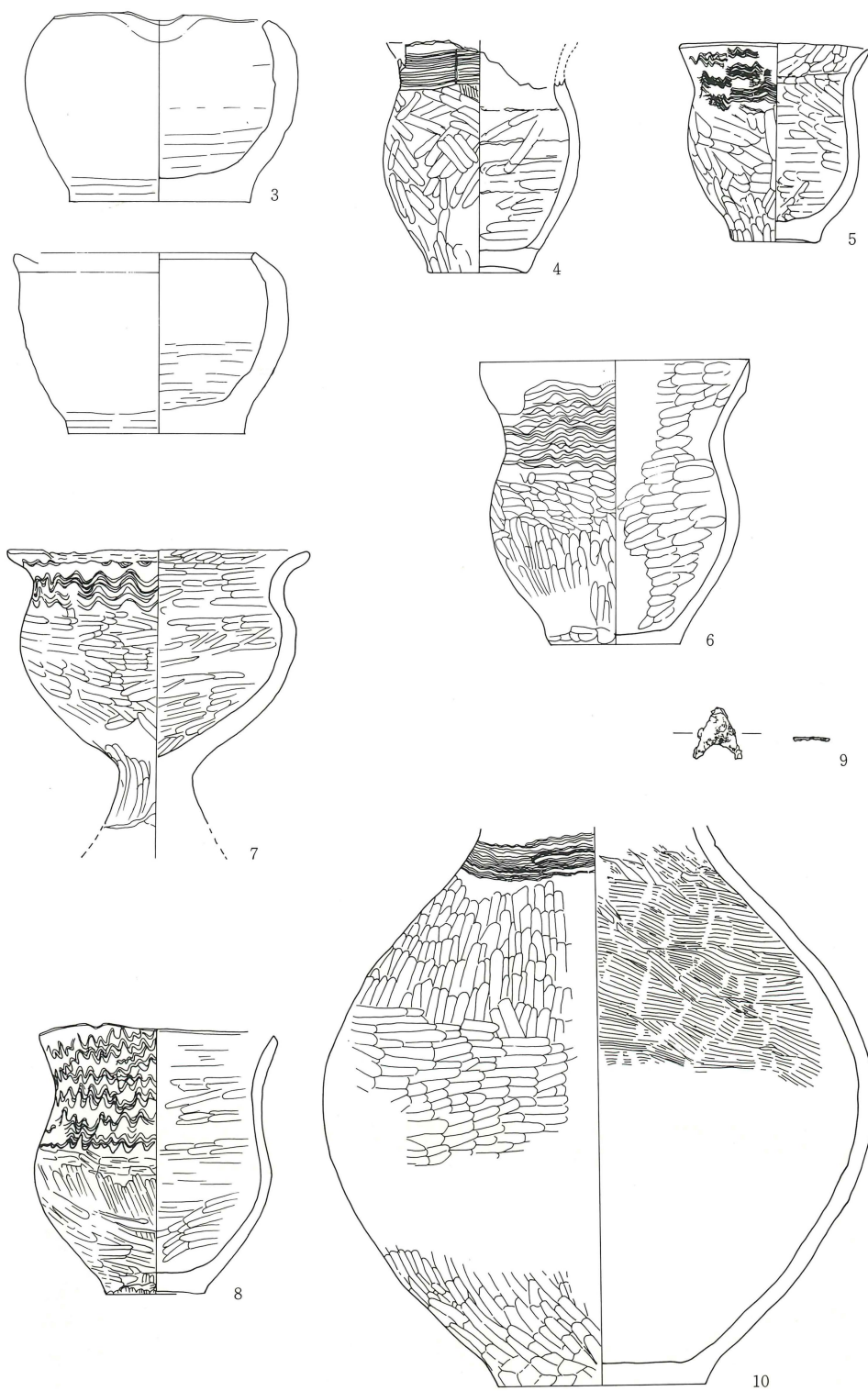


1. 黒色土、小粒の石を少量含む。
2. 黒色土、ローム粒を少量含む。
3. 黒褐色土、炭化物を多量に含む。ローム粒やや多く含む。
4. 黒褐色土、炭化物、ローム少量含む。
5. 黒褐色土、FPを多量に含む。
6. 暗褐色土、ロームをやや多く含む。

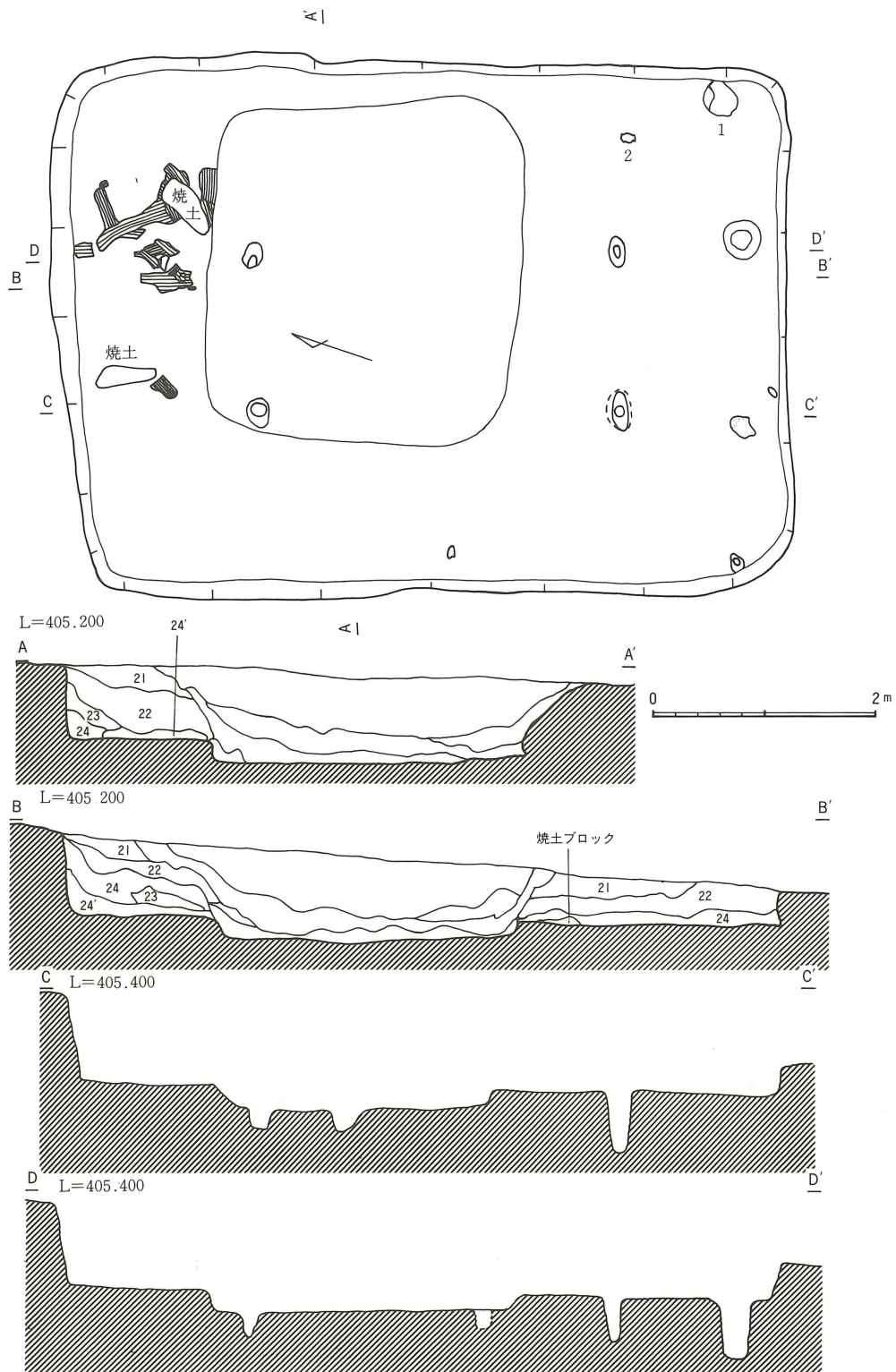
第10図 22号住居跡 (1/90) 炉 (1/45)



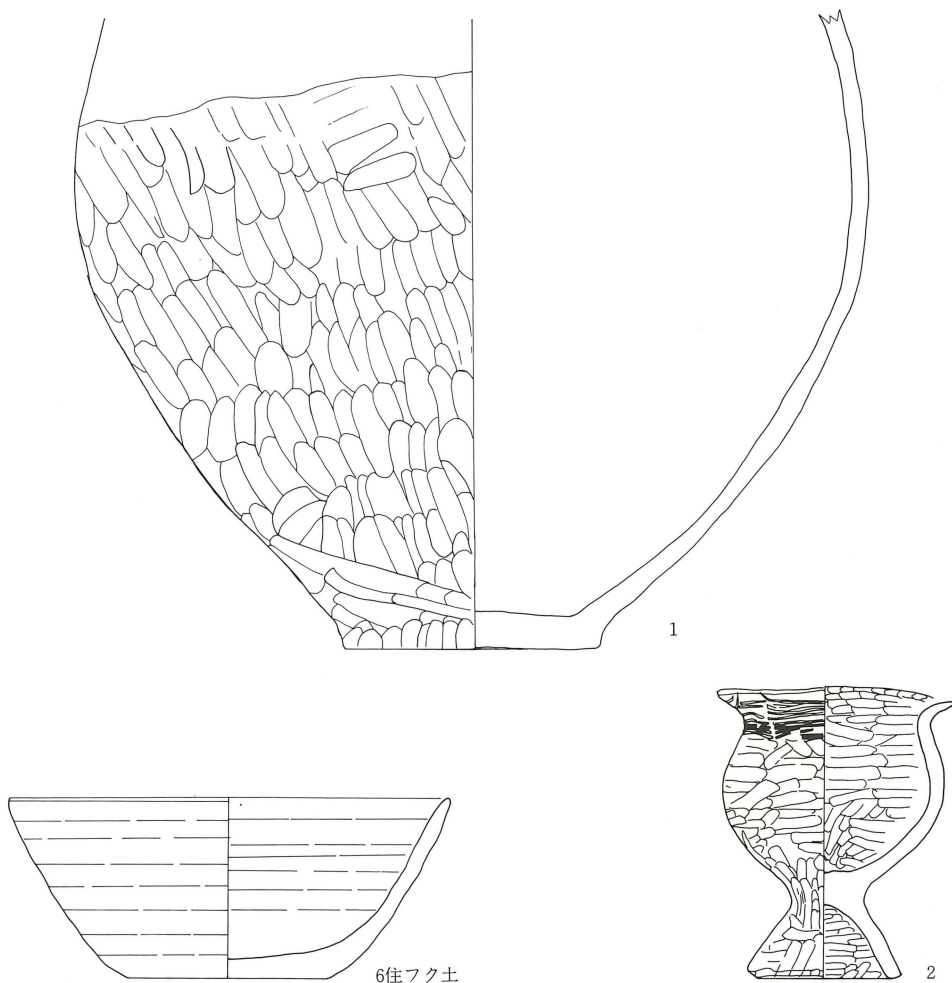
第11図 22号住居跡出土遺物 (1/3)



第12図 22号住居跡出土遺物 (1/3)



第13図 23号住居跡 (1/60)

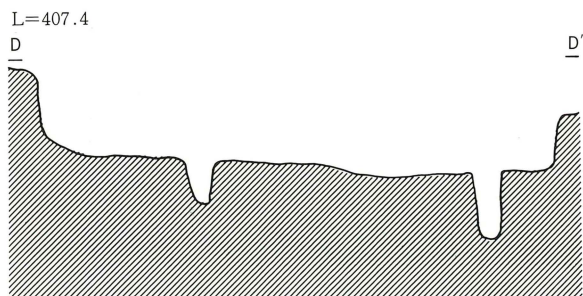
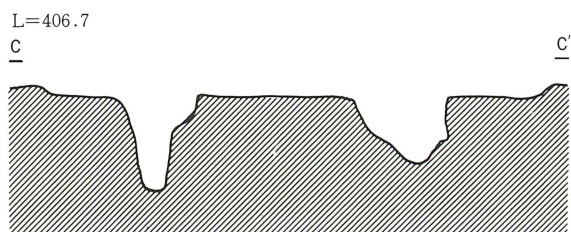
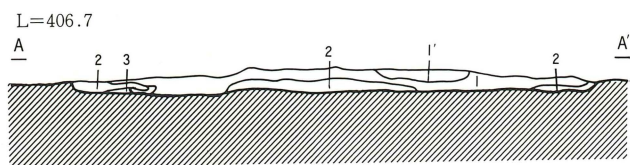
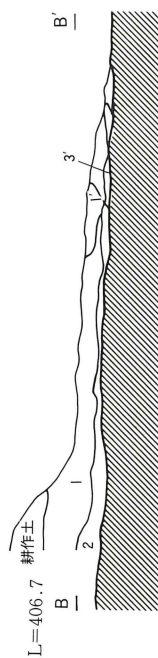
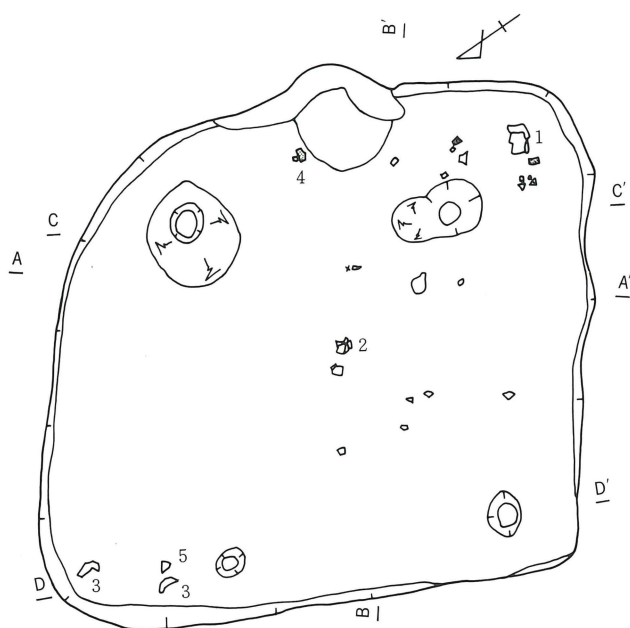


第14図 23号住居跡出土遺物 (1/3)

2 平安時代

1号住居跡 (第15・16図)

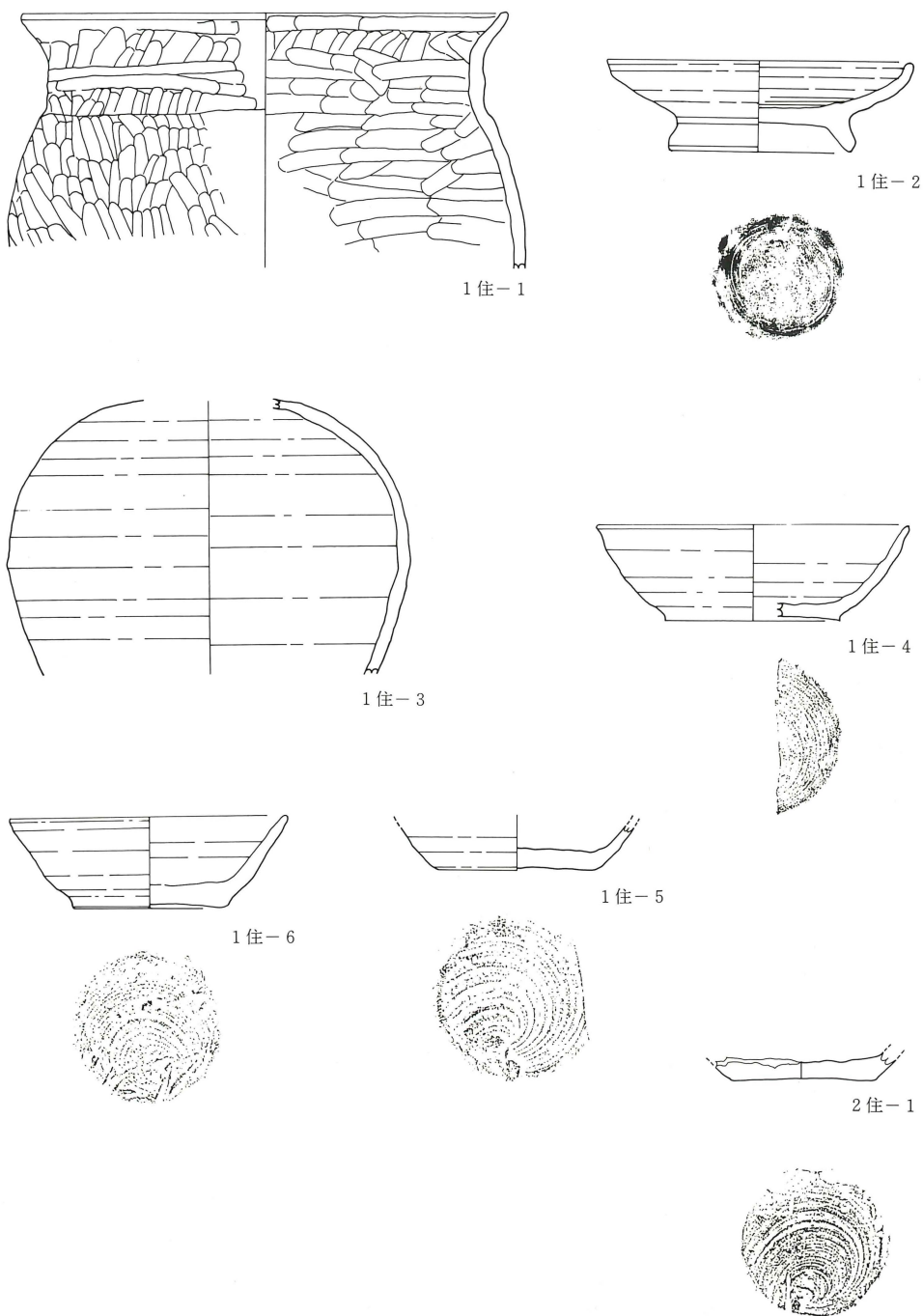
A 1 グリットに位置する。東壁にカマドを持った長方形プランの住居跡で、南北4.10m東西3.80mを測る。確認面からの深さは南壁側で8cmである。P₁～P₄が主柱穴である。貯蔵穴はカマドの脇に浅いくぼみが検出された。カマドは一番底の部分が残っていたただけだが、よく焼けていた。出土遺物は僅かであるが、カマドから甕の破片と北側の覆土より灰釉陶器の破片が検出された。



1. 黒褐色土、軽石を多量に含み、ざらざらしている。
- 1'. 黒褐色土、1層に粘土ブロックを含む。
2. 黒褐色土、FP少量、ローム小ブロックを含み、緻密である。
3. ロームブロック、中に黒色土を含む。
- 3'. ロームブロック、中に黒色土、焼土を含む。



第15図 1号住居跡 (1/60)

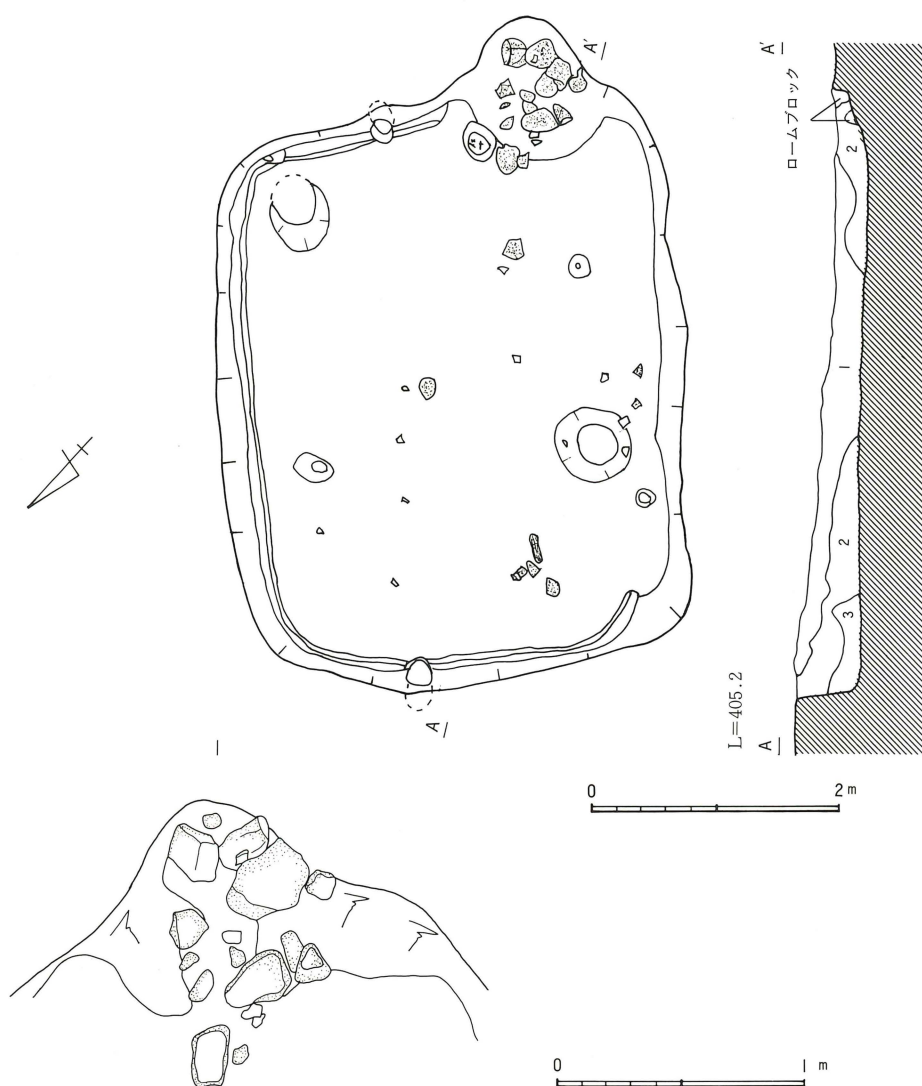


第16図 1、2号住居跡出土遺物 (1/3)

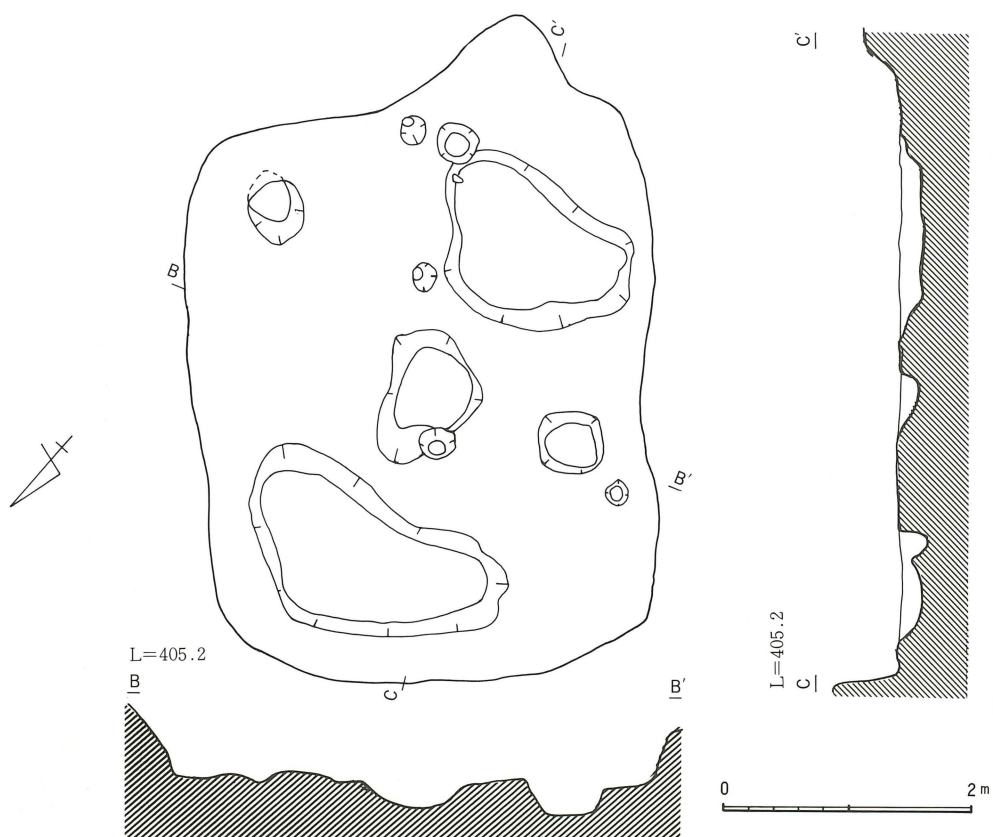
2号住居跡（第16・17・18図）

B3グリットに位置する。東壁やや中央南寄りにカマドを持った長方形プランの住居跡で、南北4.20m東西3.30mを測る。確認面からの深さは北壁で50cmである。柱穴と貯蔵穴は確認されなかったが、床下土壌が4基発見された。カマドは殆ど破壊されていた。

出土遺物はごく僅かで、覆土より坏の破片が発見された程度である。



第17図 2号住居跡（1/60）カマド（1/30）



第18図 2号住居跡掘り方 (1/60)

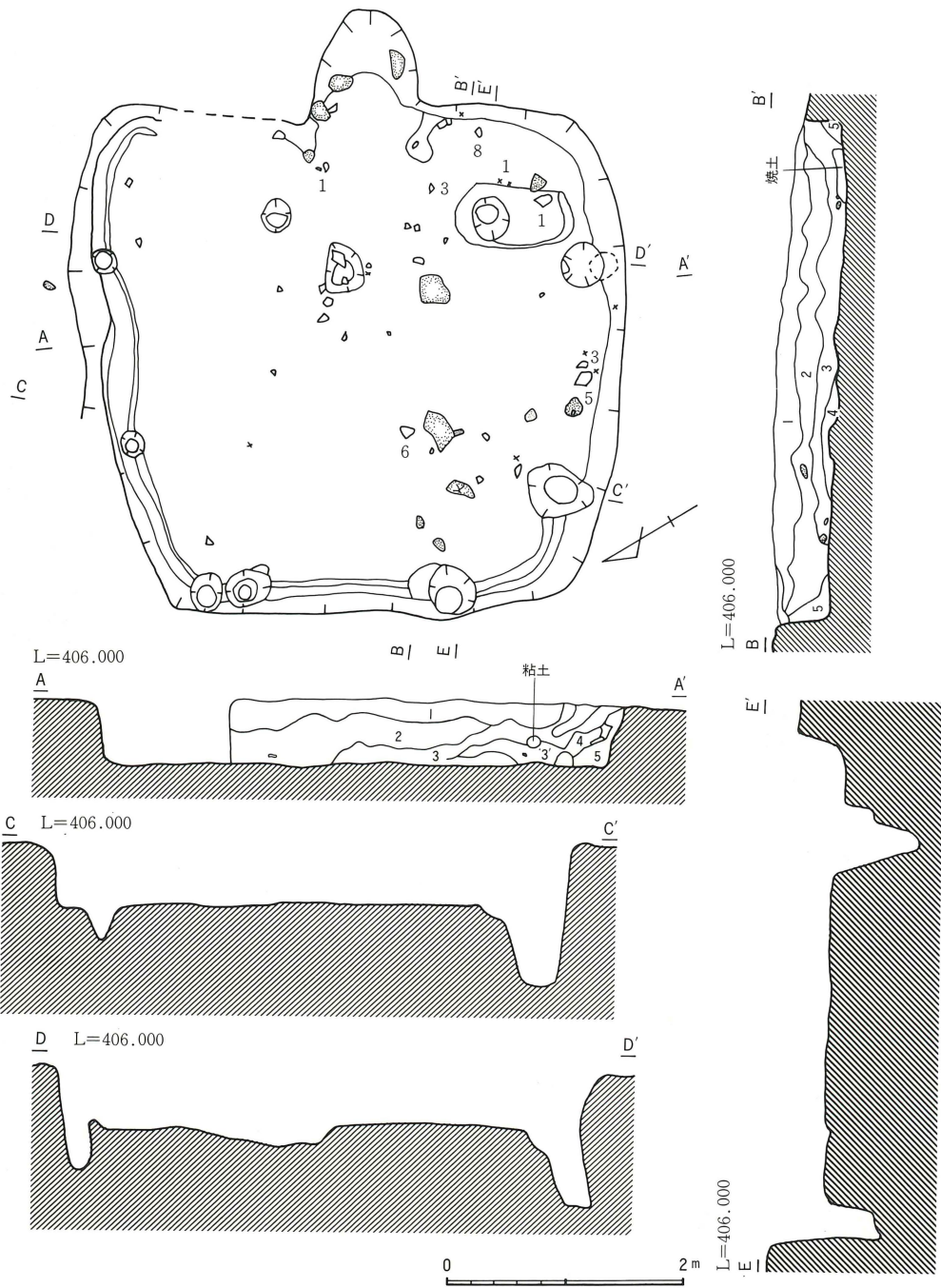
3号住居跡 (第19・20・21図)

B1・B2グリットに位置し、21号住居跡の北西の角をわずかに切っている。東壁やや中央南寄りにカマドを持ったほぼ正方形に近いプランを持った住居跡で、南北3.90m東西3.80mを測る。確認面からの深さは北壁側で50cmで、壁際には浅い壁溝が確認された。柱穴は壁に食い込んで6本検出されたが、立替が行われたと思われる。カマドは石で補強されており、袖石は使用されていない。

出土遺物は少ないが、甕の破片・坏があり、特筆すべきものに床下より丸軋が出土している。

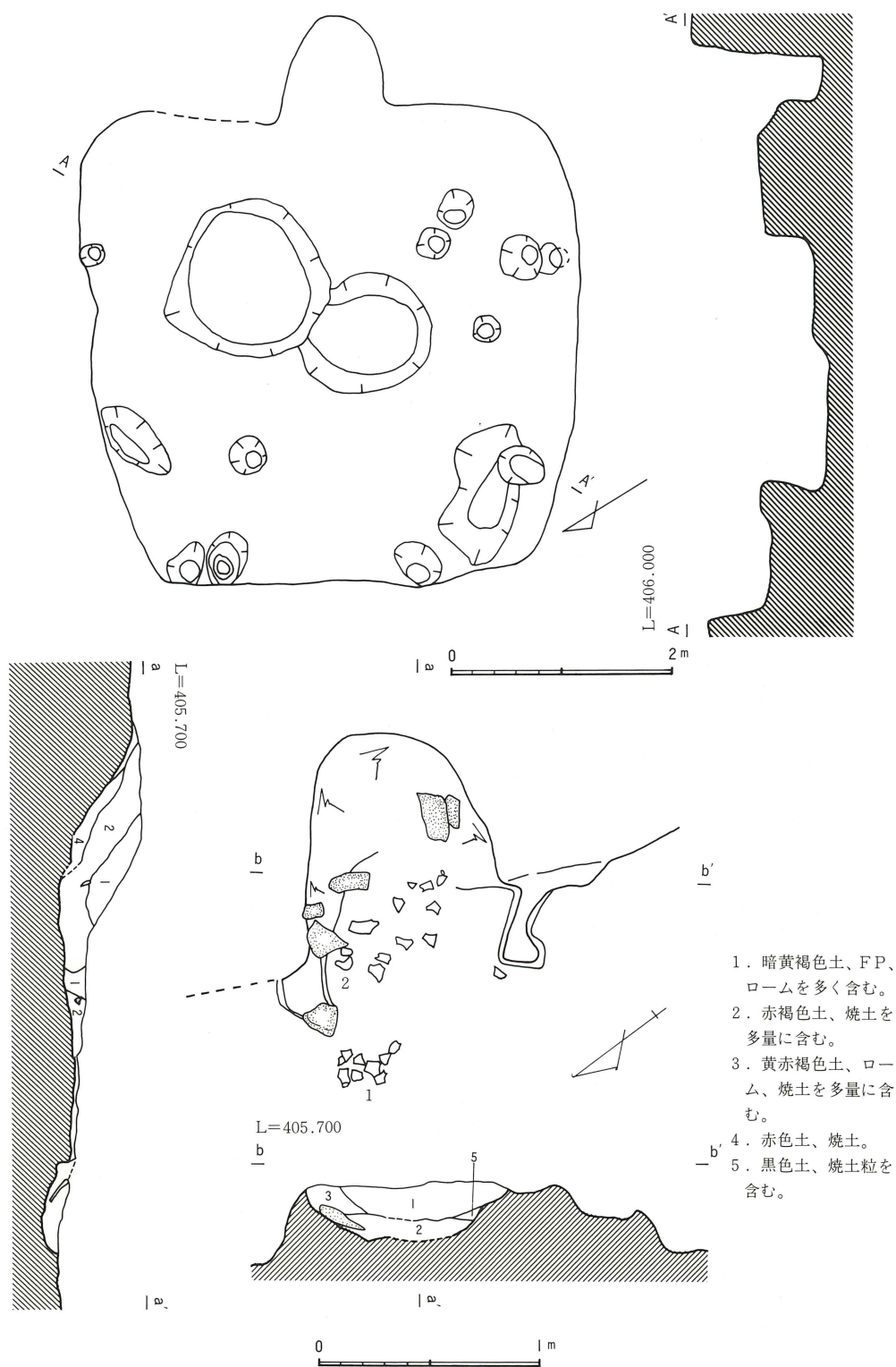
4号住居跡 (第22・23・26図)

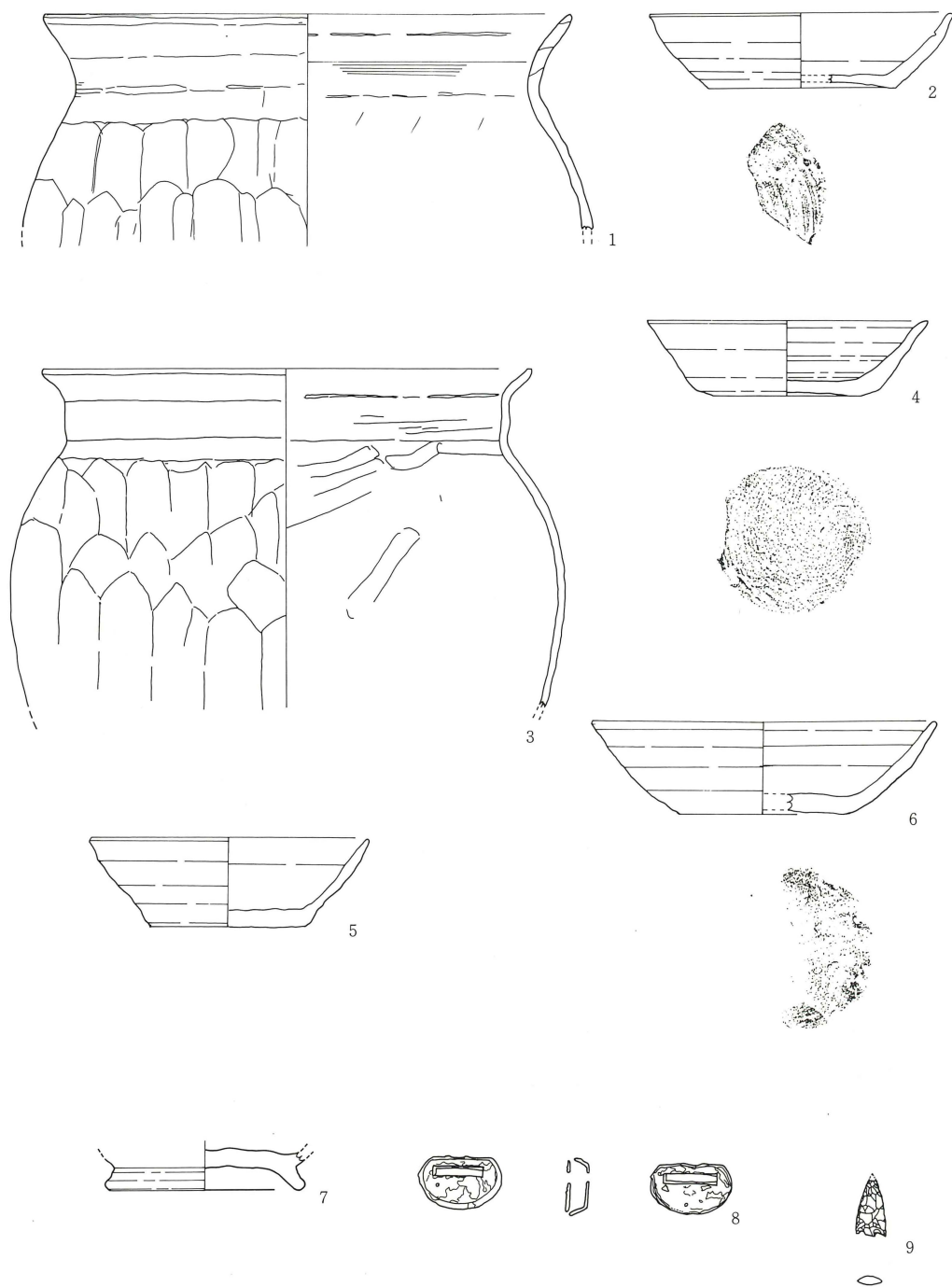
B1・C1グリットに位置する。東壁やや南寄りにカマドを持った長方形プランの住居跡で、北3.90m東西4.20m、確認面からの深さは北壁側で30cmを測る。カマド右側は石を使用しているが、左半分は5号住居跡で削られている。



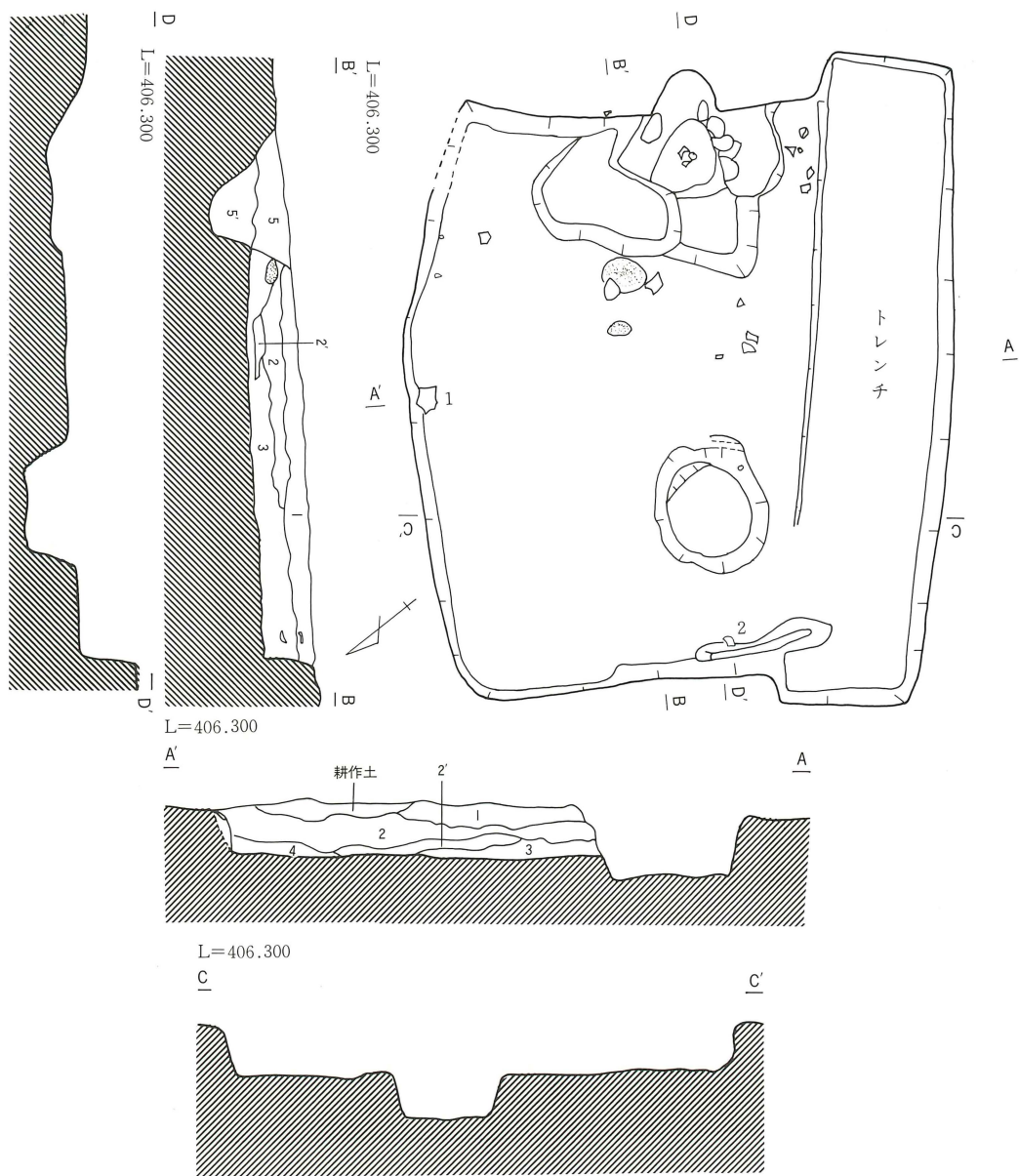
1. 黒褐色土、FPを含む、ザラザラしている。
2. 黒褐色土、FP、焼土粒子、ロームブロックを含む。
3. 暗黒褐色土、焼土粒子、大粒のロームブロック、FPを含む。
- 3'. 暗黒褐色土、3層の中に多量の焼土を含む。
4. 暗黒褐色土、焼土、中にFP、黒褐色土を含む。
5. 黒褐色土、壁のくずれ、流れ込み。

第19図 3号住居跡 (1/60)



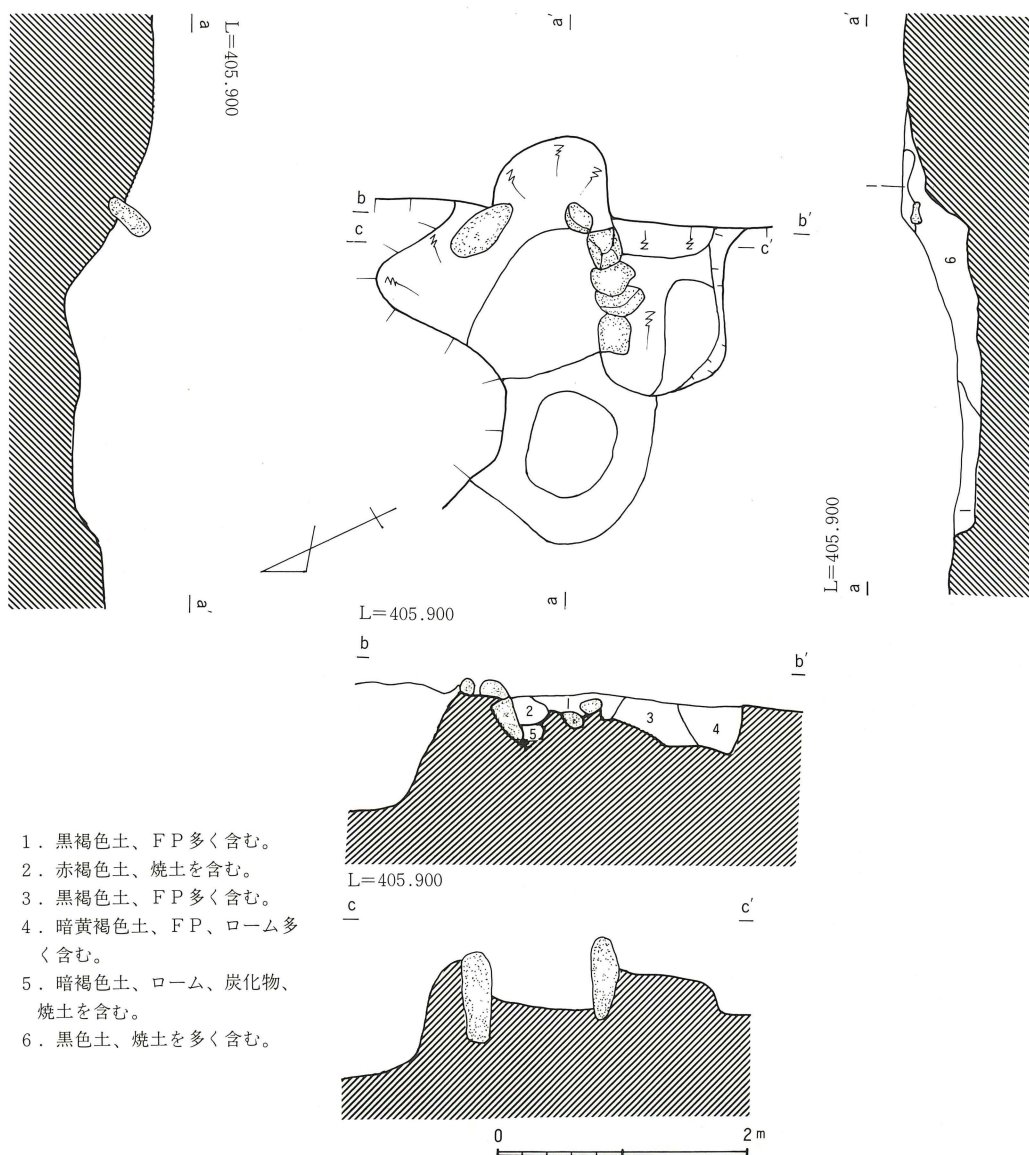


第21図 3号住居跡出土遺物 (1/3)



1. 黒褐色土、FPを多量に含む。
2. 黒褐色土、FP・焼土粒子を少量含む。
- 2'. 黒褐色土、2層の中にローム粒子、焼土粒子を多く含む。
3. 黒褐色土、FP・ローム小ブロックを含む。
4. 黒色土、ロームブロック、FPを含み、固くしまっている。
5. 暗褐色土、FP・ロームブロックを多く含む。
- 5'. 5層に焼土を含む。

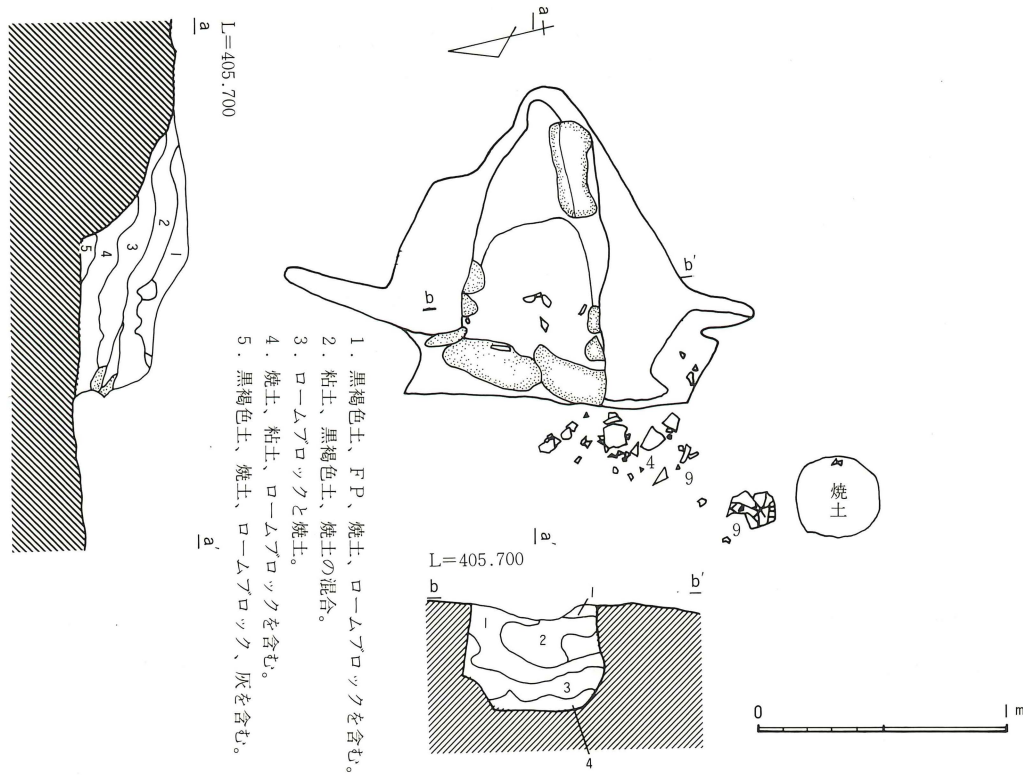
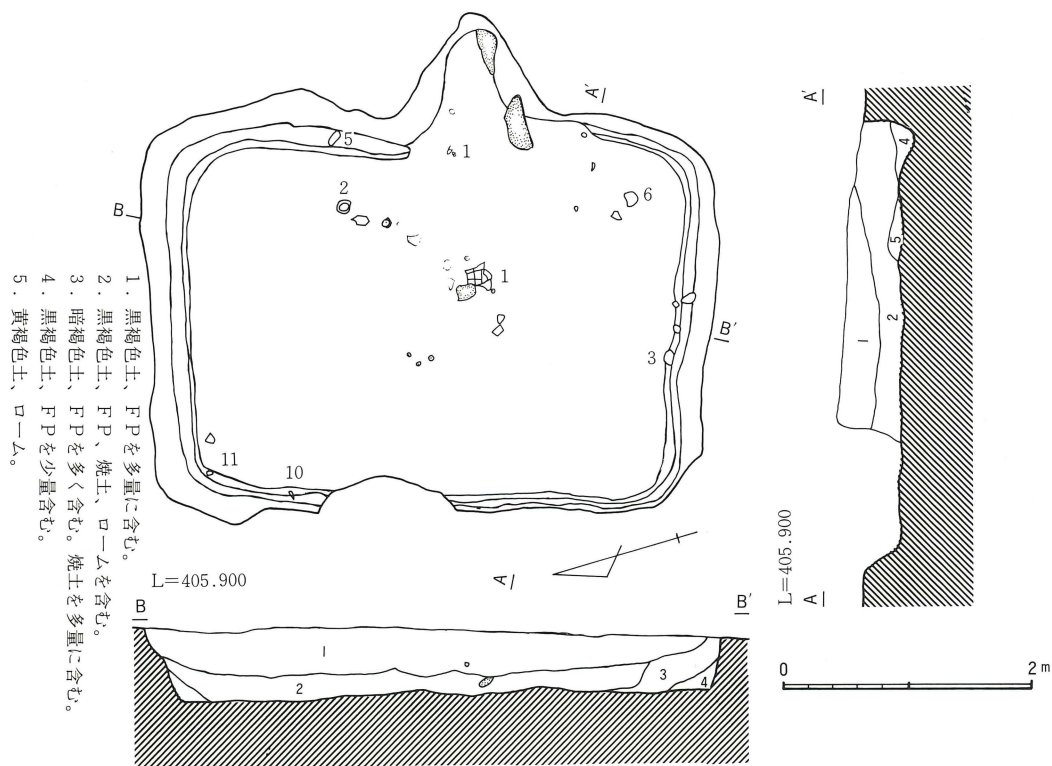
第22図 4号住居跡 (1/60)



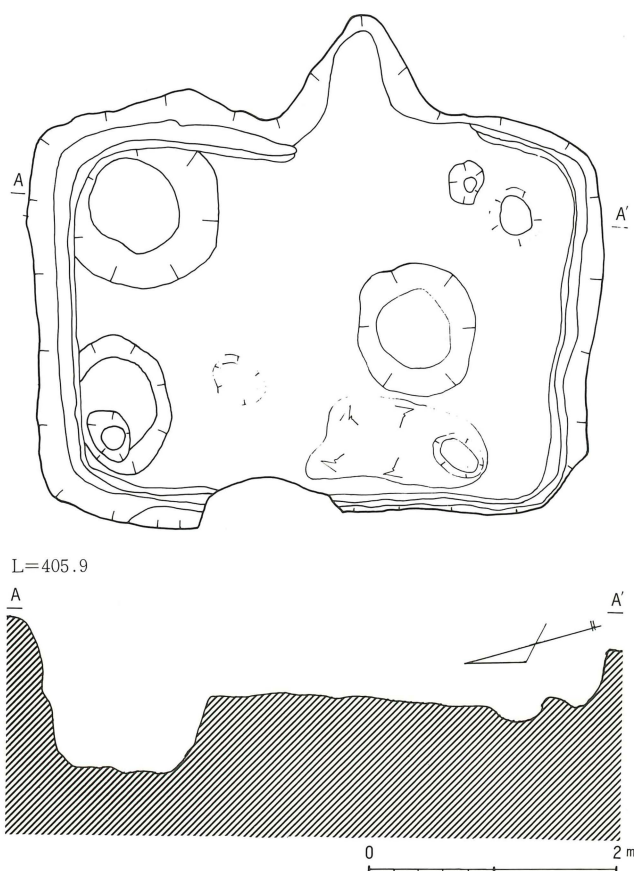
5号住居跡 (第24・25・26・27図)

B2・C2グリットに位置する。東壁中央やや南寄りにカマドを持つ長方形プランの住居跡で南北4.08m東西3.00m、確認面からの深さは北壁で60cmを測る。カマドは石を使用しており、焚口天井石がカマドの前にズリ落ちていた。

出土遺物は甕の破片と坏類が主であるが、鉄鏝も出土している。



第24図 5号住居跡 (1/60) カマド (1/30)



第25図 5号住居跡掘り方 (1/60)

6号住居跡 (第28・29・31図)

B 3・C 3グリットに位置し、23号住居跡の北半分を掘り込んでいる。東壁中央やや南寄りにカマドを持つ長方形プランの住居跡で、南北2.60m東西2.95m、確認面からの深さは8cmを測る。カマドは石を使用しており、袖石も良好な状態で残存していた。

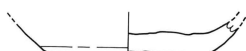
7号住居跡 (第30・31・32図)

C 1・C 2グリットに位置する。東壁中央やや南寄りにカマドを持つ長方形プランの住居跡で、南北3.70m東西2.50m、確認面からの深さは北壁で30cmを測る。柱穴は発見されなかったが、床下土壌が2基検出されている。

出土遺物は坏がほとんどであるが、墨書土器が2個体ある。



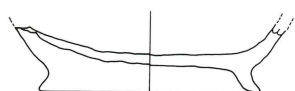
4住-1



4住-2



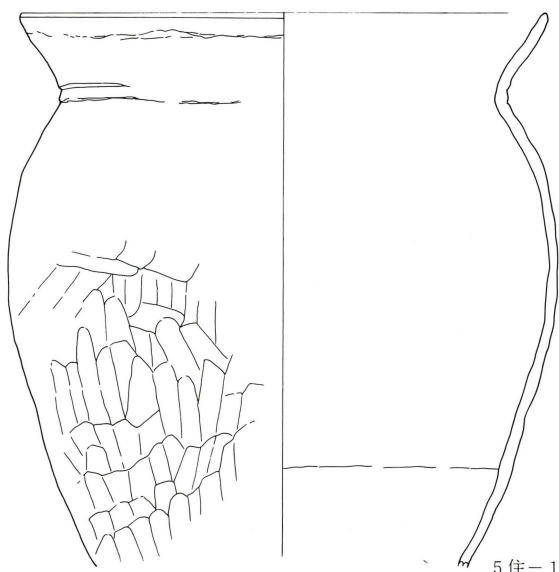
4住-3



4住-4



4住-5



5住-1

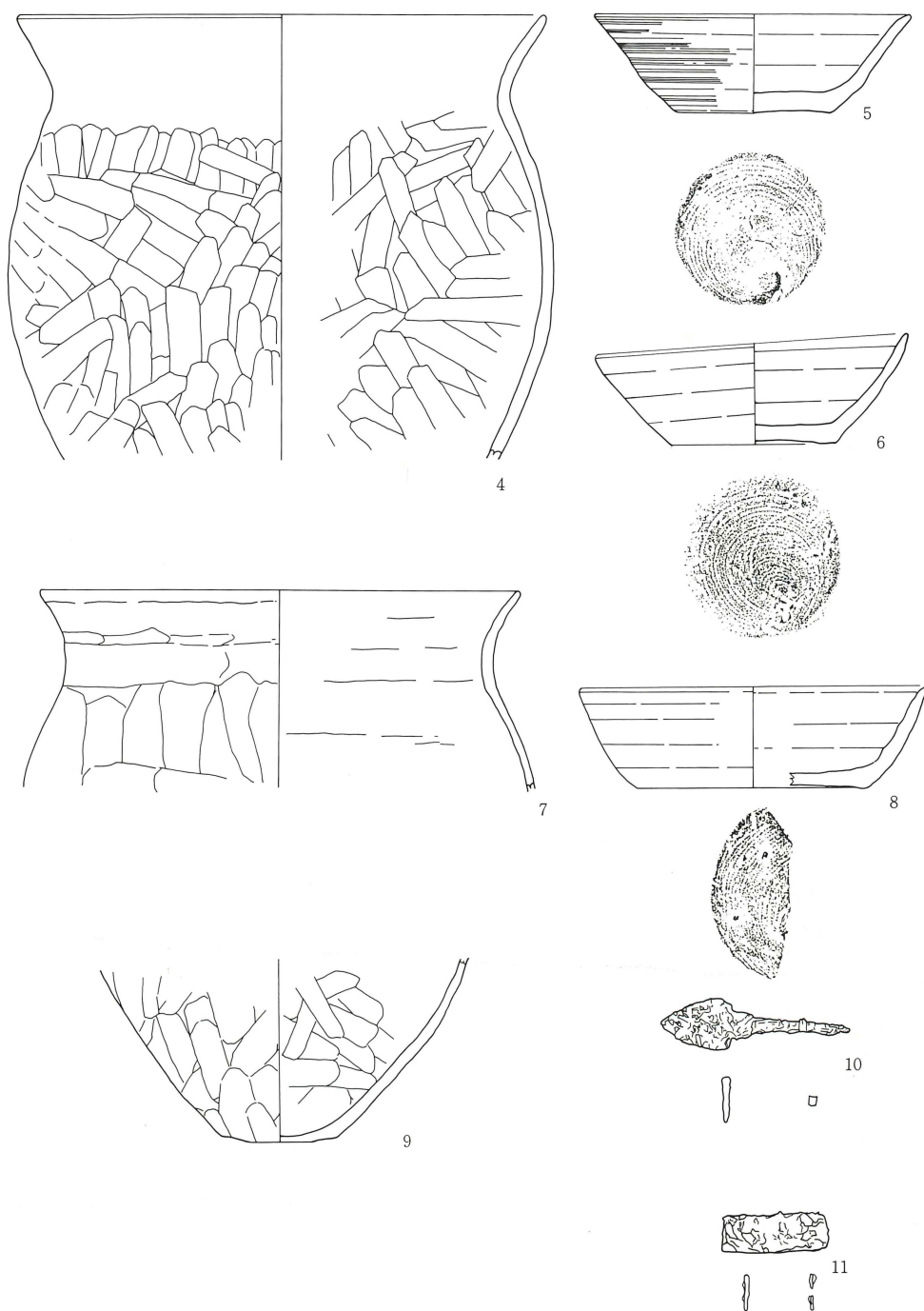


5住-2

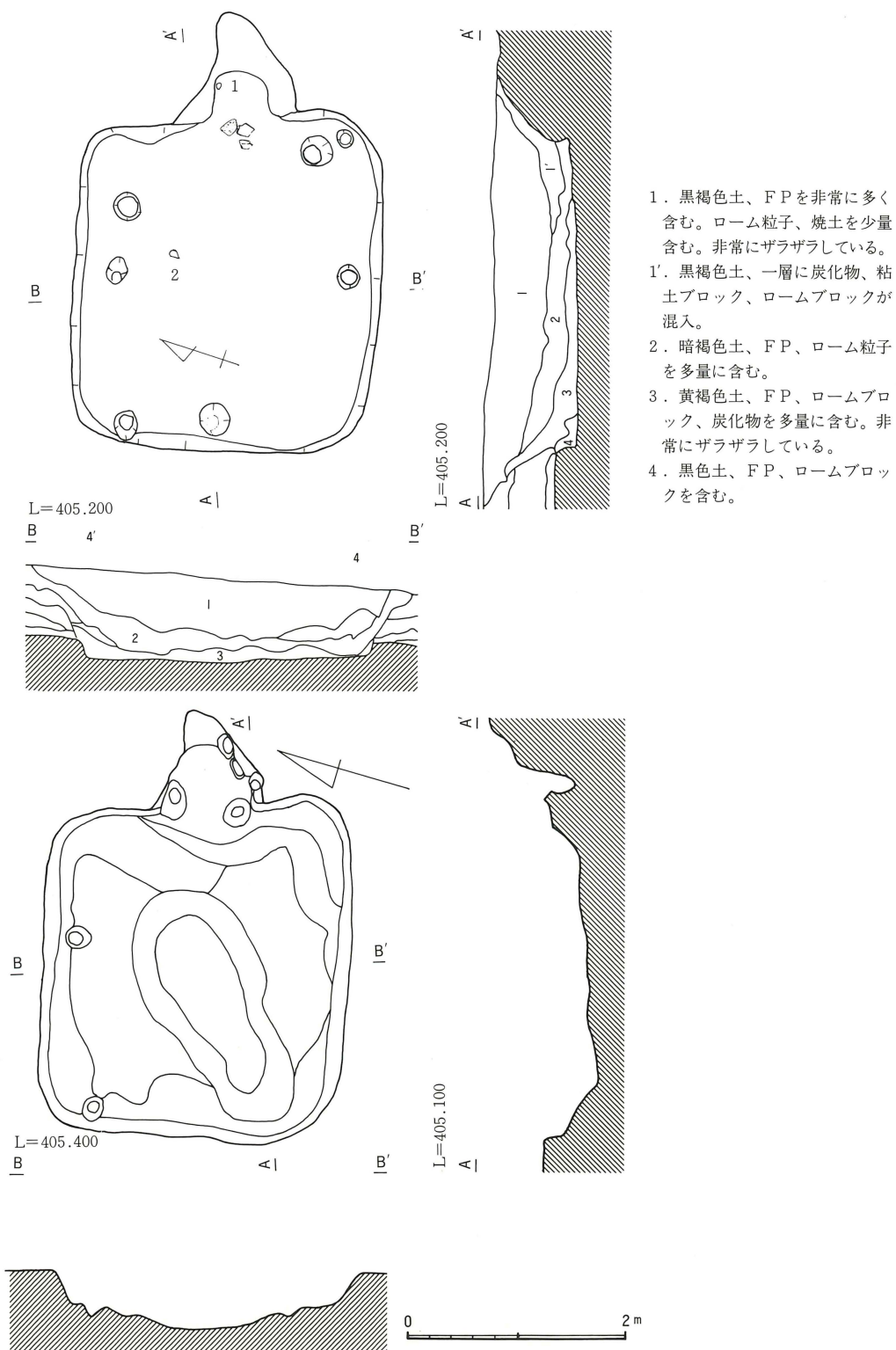


5住-3

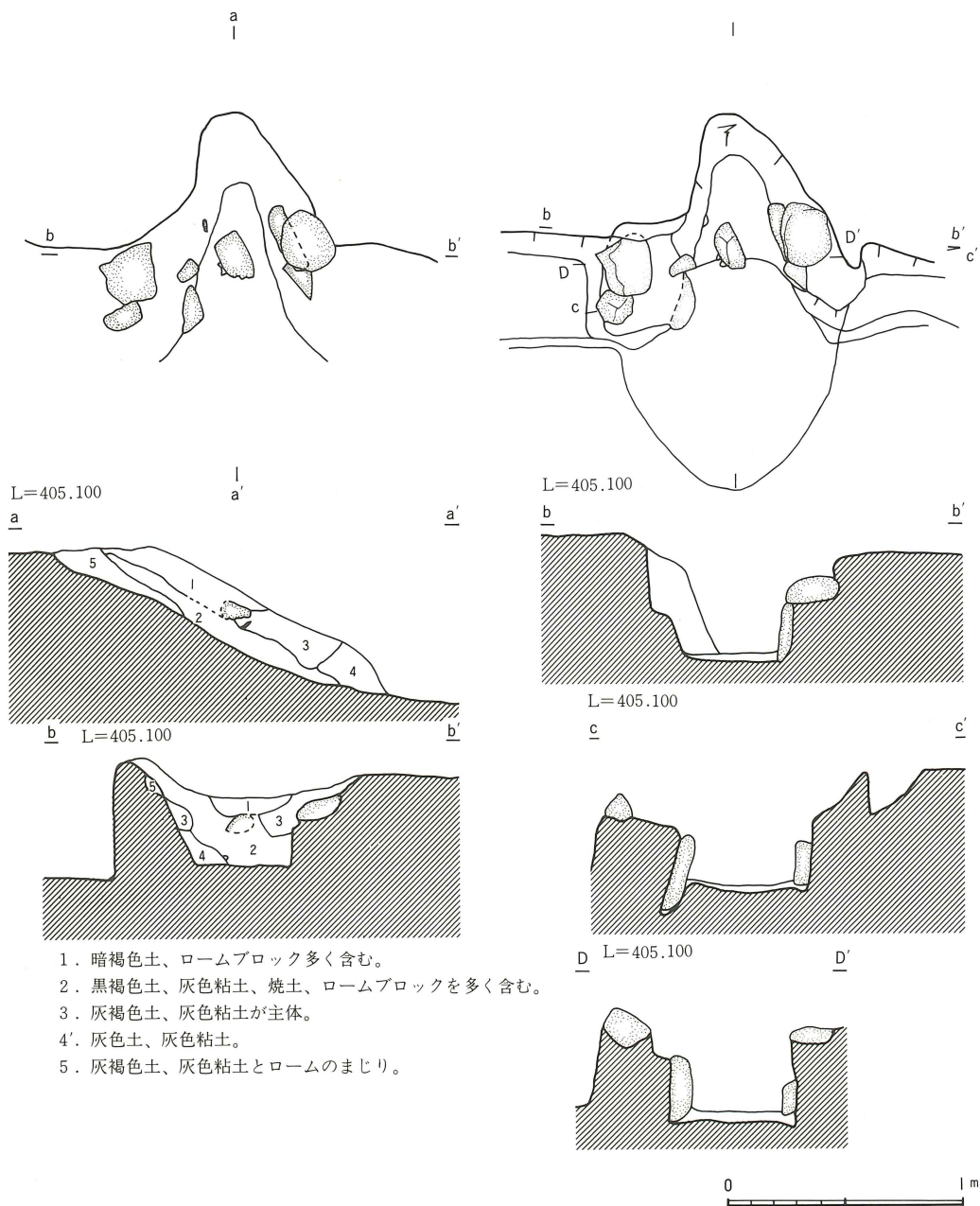
第26図 4、5号住居跡出土遺物 (1/3)



第27図 5号住居跡出土遺物 (1/3)



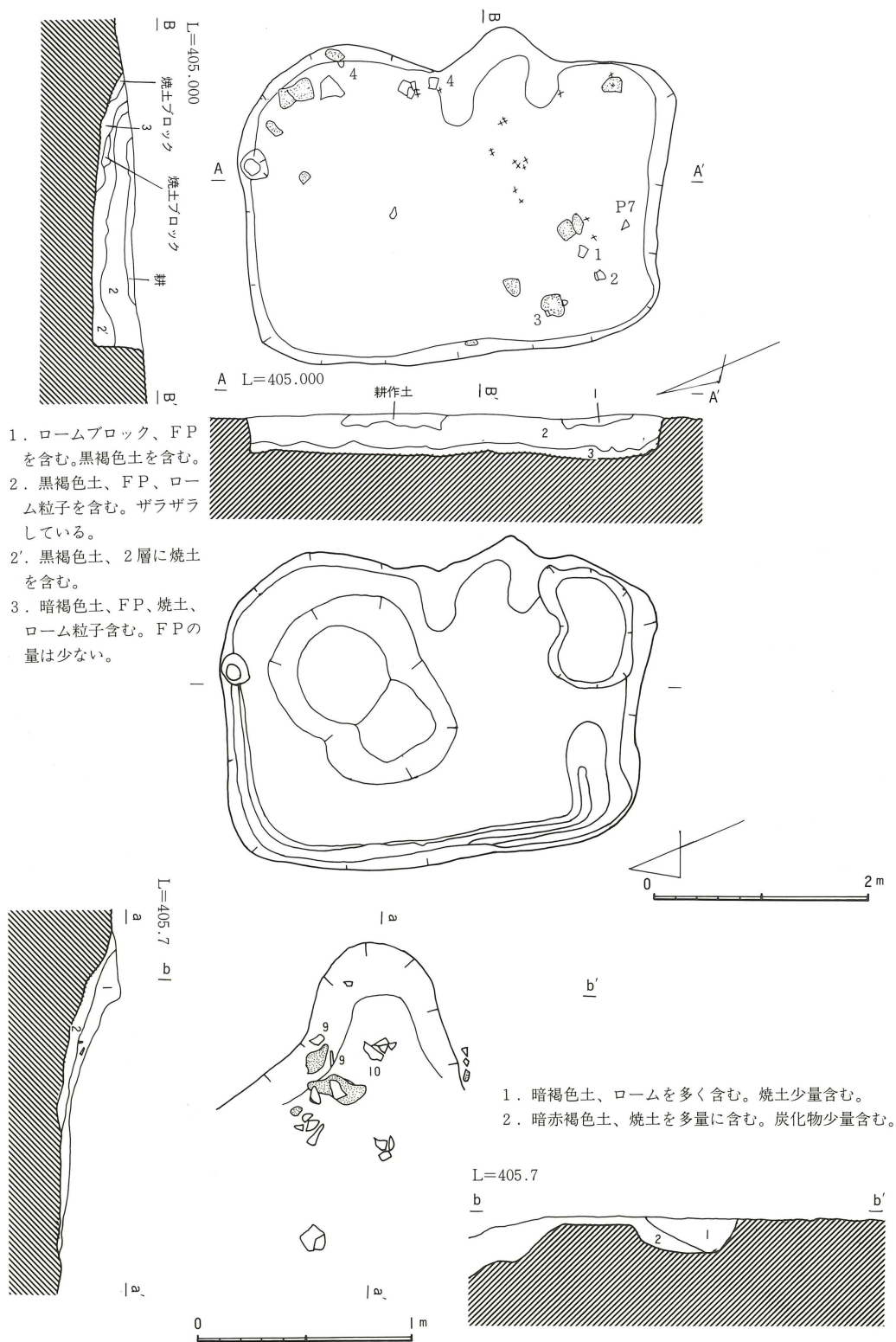
第28図 6号住居跡 (1/60) 同掘り方 (1/60)

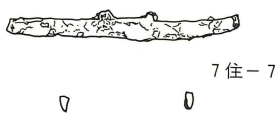
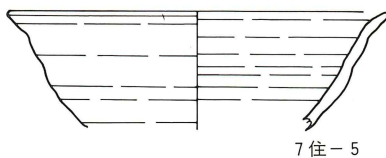
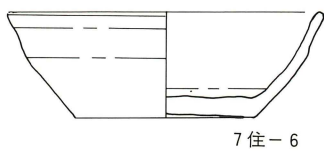
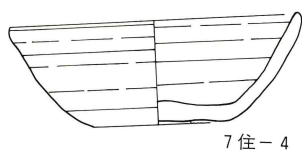
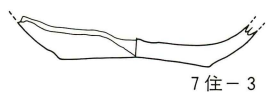
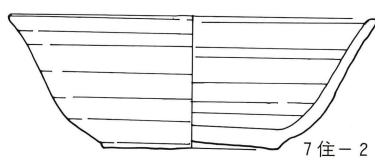
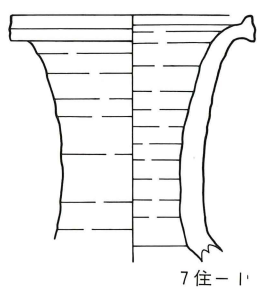
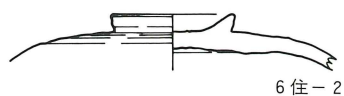
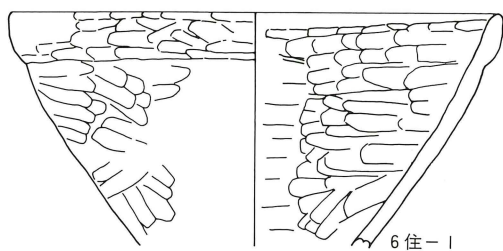


第29図 6号住居跡 カマド (1/30)

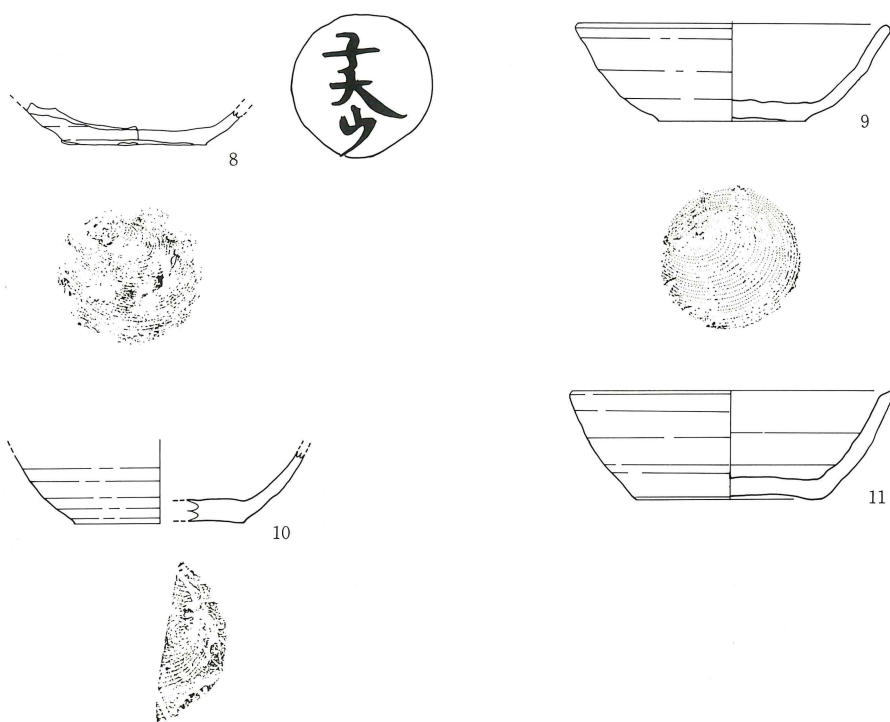
23号住居跡セクション註記 (15頁参照)

- 21. 黒褐色土、ローム粒子を少量含む。
- 22. 褐色土、ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 23. 黒色土、ローム粒子を含む。
- 24. 褐色土、ローム粒子、ロームブロック、炭化物を含む。
- 24'. 24層に多量のローム粒子、炭化物を多量に含む。





第31図 6、7号住居跡出土遺物 (1/3)



第32図 7号住居跡出土遺物(1/3)

9号住居跡 (第33・34・35図)

D1・D2グリットに位置する。東壁中央やや南寄りにカマドを持つ長方形プランの住居跡で、8号住居跡を切っている。それと、トレンチにより切られたために8号住居跡の北西の隅をわずに残すだけとなった。南北4.30m東西3.70m、確認面からの深さは40cmを測る。カマドは耕作により上部を削られていた。

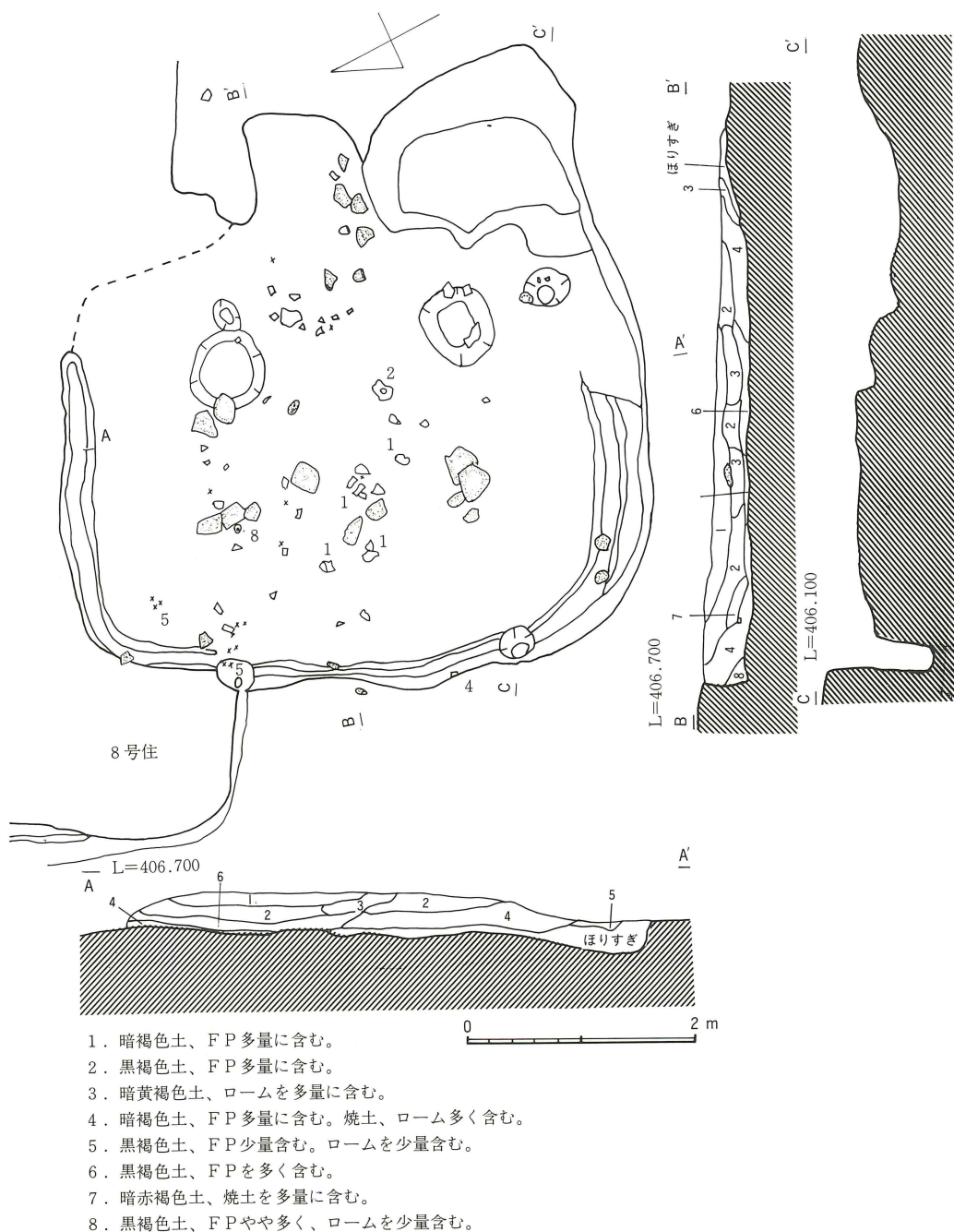
出土遺物は、坏類・甕の破片の他に鎌・斧などの鉄製品とカマドの覆土より三彩小壺の蓋が発見されている。

10号住居跡 (第36・37・39図)

D2・E2グリットに位置する。東壁中央やや南寄りにカマドを持つ長方形プランの住居跡で、南北3.40m東西3.10m、確認面からの深さは40cmを測る。

柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。カマドは石で補強しており、左袖の残存状況は良好であった。

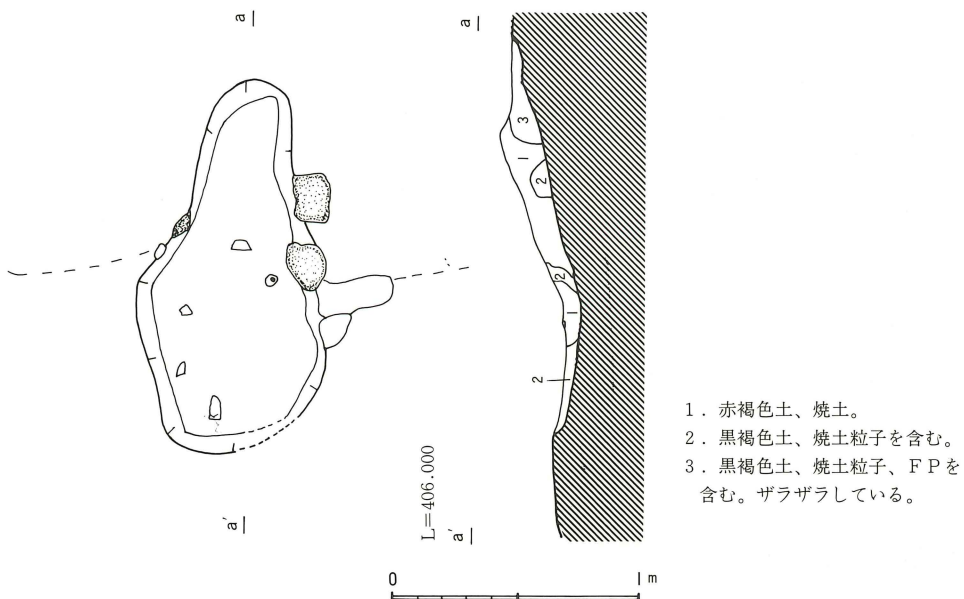
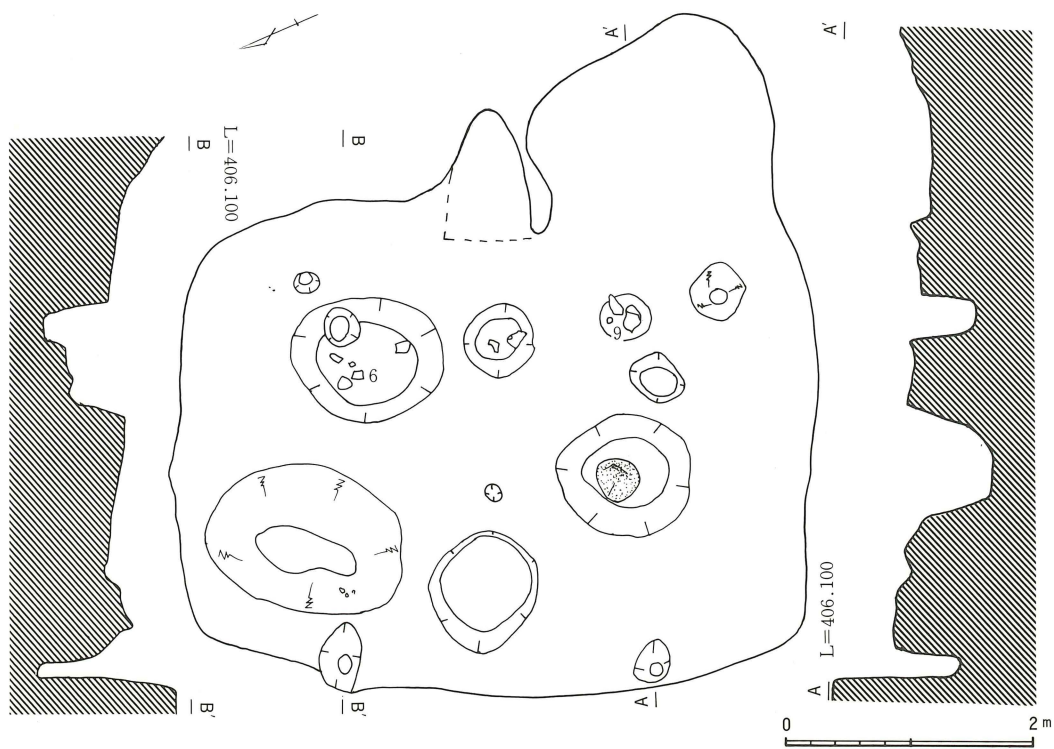
出土遺物は僅かであったが、坏等の他に鉄器が出土している。



第33図 9号住居跡 (1/60)

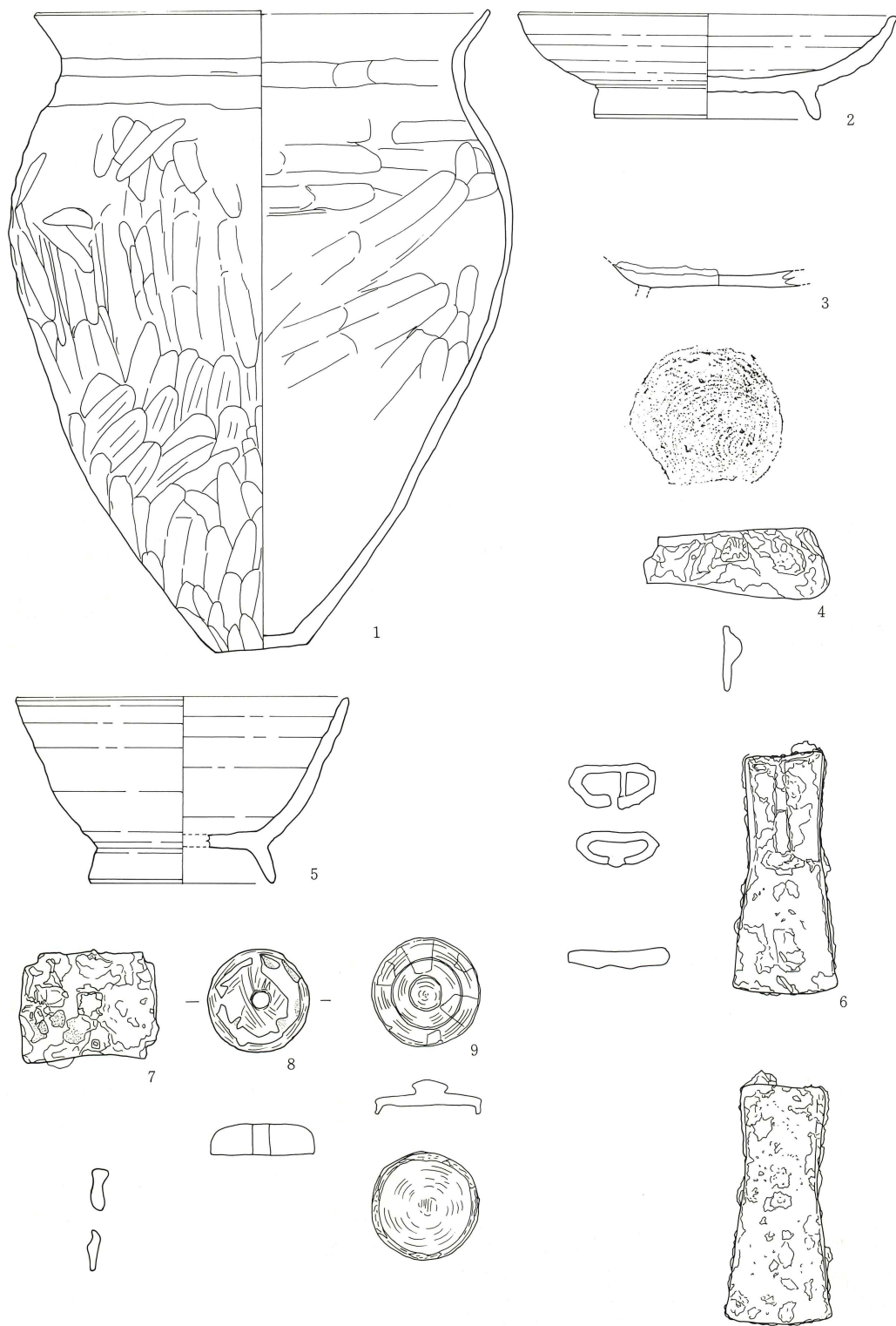
11号住居跡 (第38・41図)

F 1 グリットに位置する。トレンチによって中央部を切られ、12号住居跡によって南壁を切られているため、カマドは残っていなかった。南北3.40m東西3.10m、確認面からの深さ5cmを測る。出土遺物は、須恵器大甕の破片が発見されている。

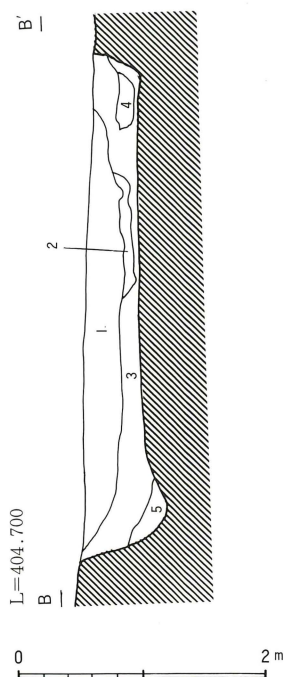
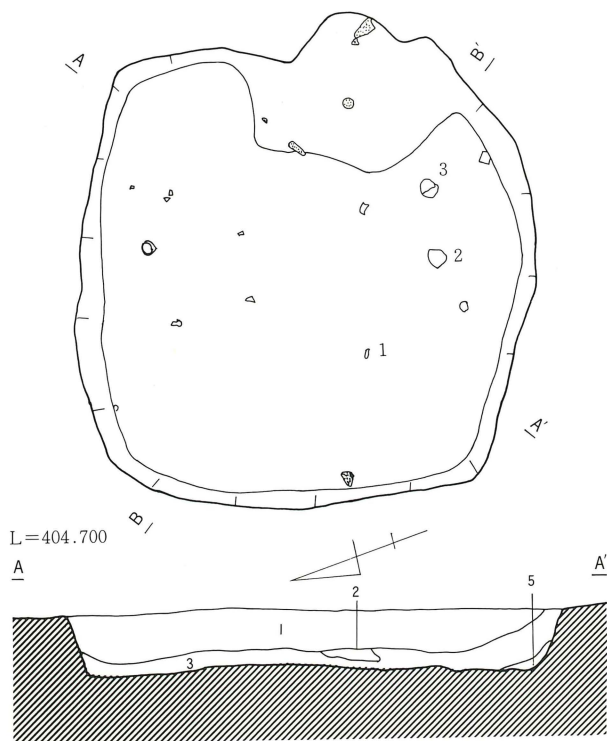


1. 赤褐色土、焼土。
2. 黒褐色土、焼土粒子を含む。
3. 黒褐色土、焼土粒子、FPを含む。ザラザラしている。

第34図 9号住居跡掘り方 (1/60) カマド (1/30)



第35図 9号住居跡出土遺物 (1/3)

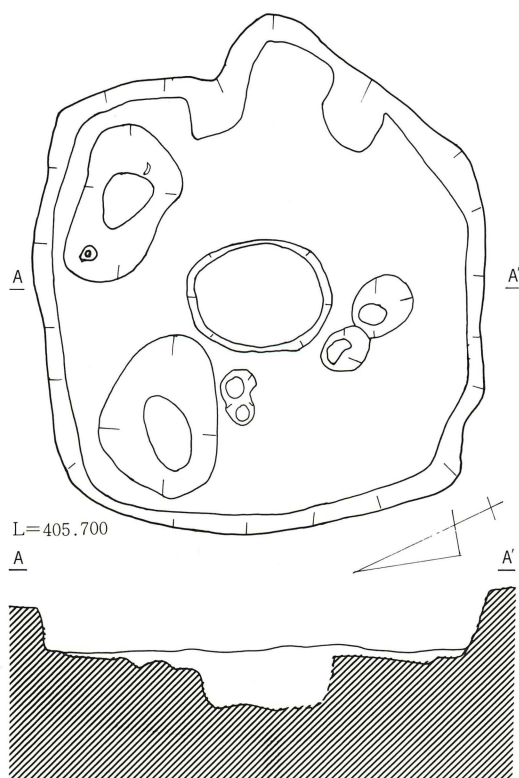


1. 黒褐色土、FP 多量に含む。炭化物、ローム少量含む。
2. 暗褐色土、ローム、FP、多量に含む。
3. 黒褐色土、FP 多量に含む。ローム 1 層より多く含む。
4. 黒色土、FP 少量含む。
5. 黒褐色土、FP やや多く含む。ローム少量含む。

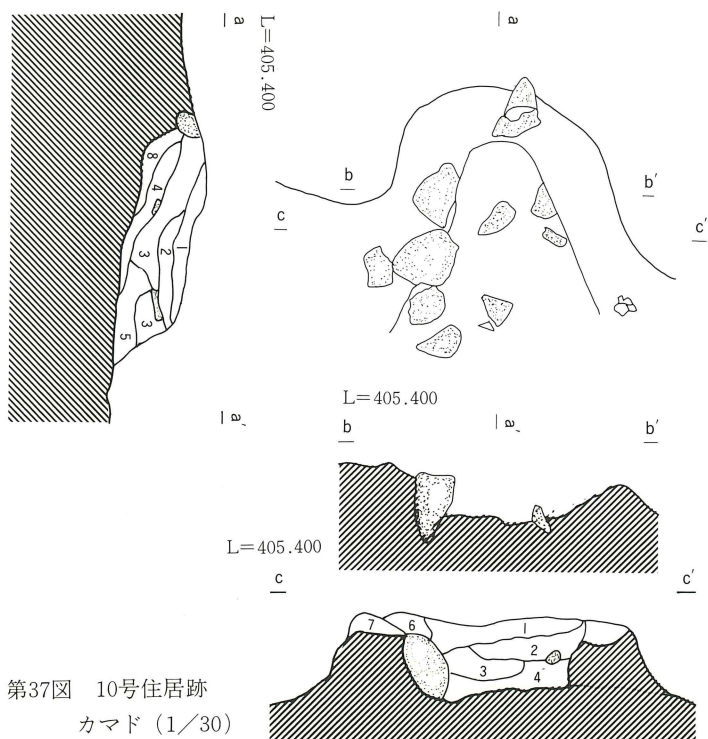
12号住居跡（第40・41図）

F 1・F 2 グリットに位置する。東壁やや中央南寄りにカマドを持つ長方形プランの住居跡で、南北4.05m東西3.30m、確認面からの深さは32cmを測る。中央部分が攪乱されているが、カマドは石を補強に使用している。

出土遺物は僅かで、甕の口縁部と胴上部の破片が発見されている。

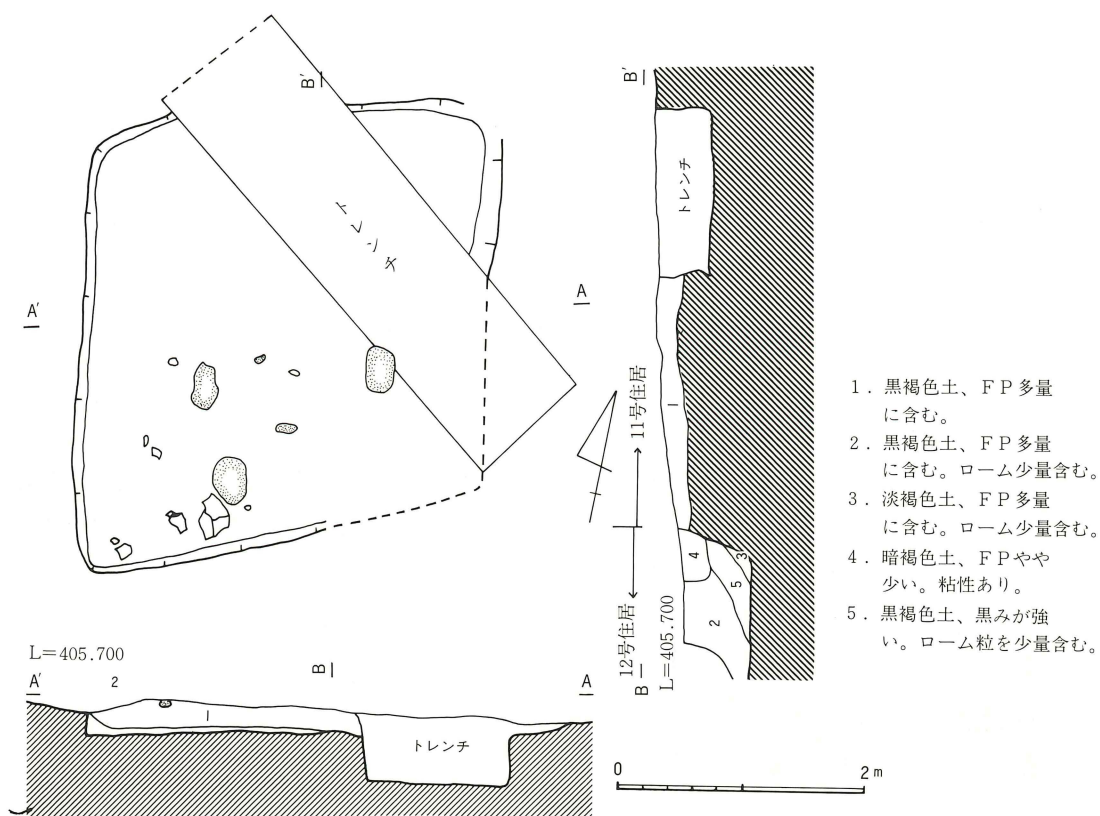


第36図 10号住居跡・同掘り方（1/60）



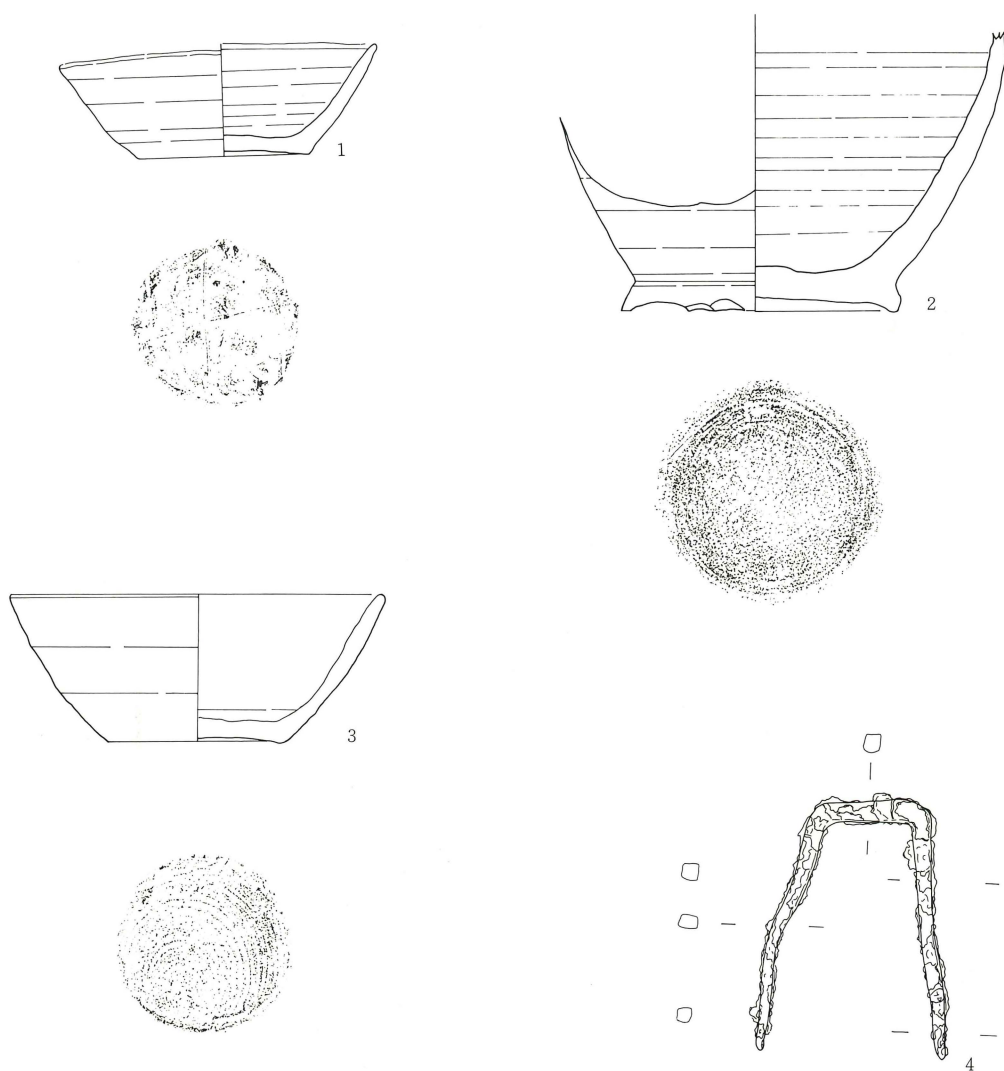
1. 黒褐色土、ロームブロック、FPを多く含む。
2. 暗黄褐色土、ロームブロック、焼土を多量に含む。
3. 黒褐色土、FP多量に含む。ロームブロック多く含む。
4. 赤褐色土、焼土を多量に含む。
5. 黄褐色土、粘土とロームのまじり。
6. 暗黄褐色土、ローム、FP多量に含む。
7. 暗褐色土、粘土、FP多く含む。
8. 黒褐色土、ローム、焼土、炭化物、FPを含む。

第37図 10号住居跡
カマド (1/30)



1. 黒褐色土、FP多量に含む。
2. 黒褐色土、FP多量に含む。ローム少量含む。
3. 淡褐色土、FP多量に含む。ローム少量含む。
4. 暗褐色土、FPやや少い。粘性あり。
5. 黒褐色土、黒みが強い。ローム粒を少量含む。

第38図 11号住居跡 (1/60)



第39図 10号住居跡出土遺物 (1/3)

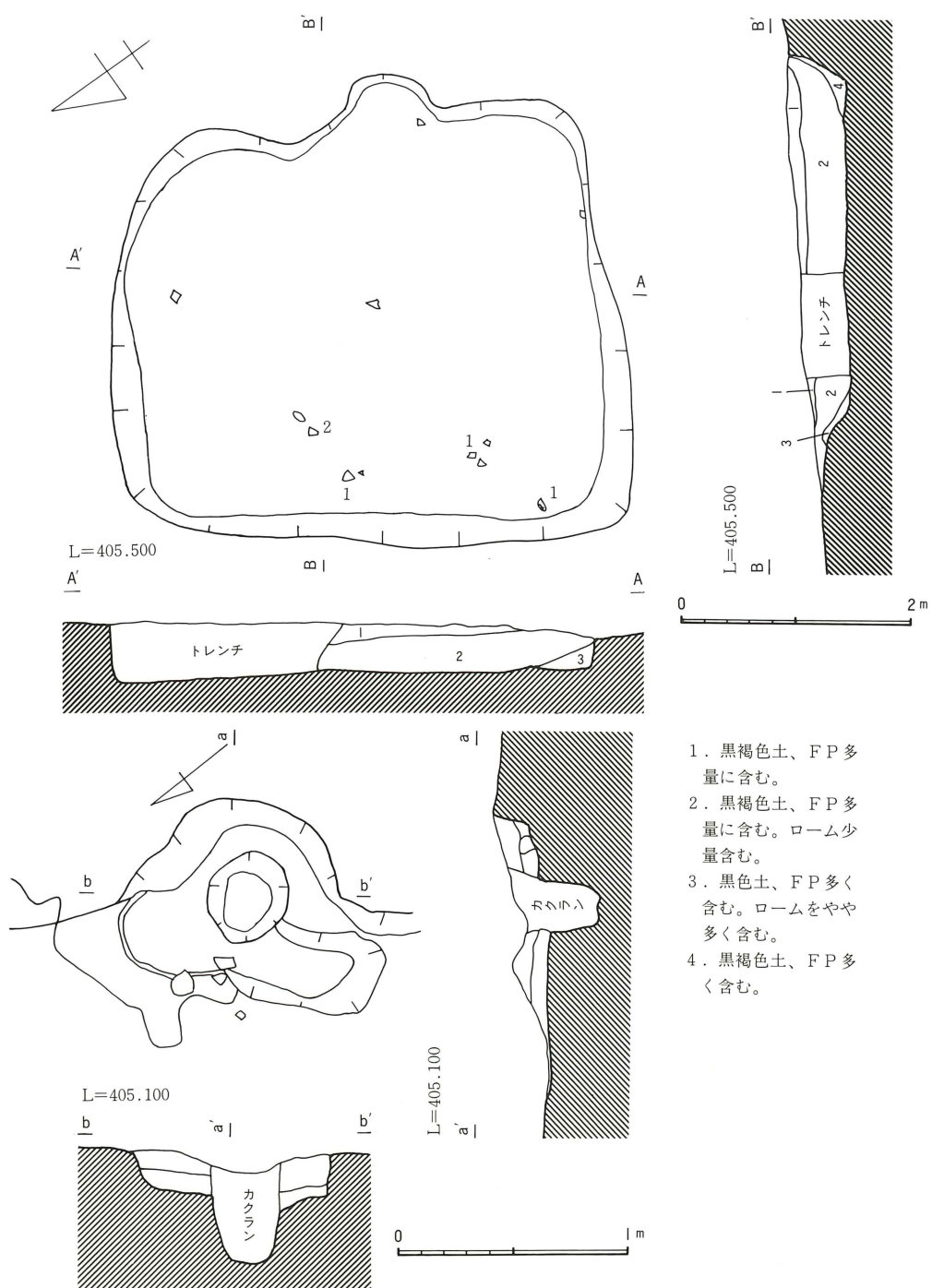
13号住居跡 (第41・42図)

F 2・F 3グリットに位置する。東壁中央寄りにカマドを持つ長方形プランの住居跡で、南北3.05m東西3.35m、確認面からの深さは5cmを測る。床面近くまで削られており、カマドはほとんど残っていなかったが、焼土は大量にあった。

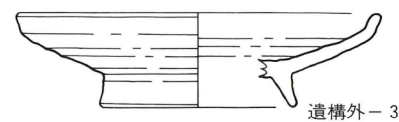
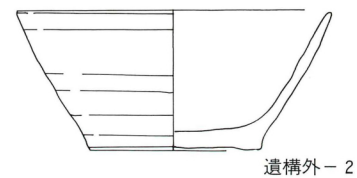
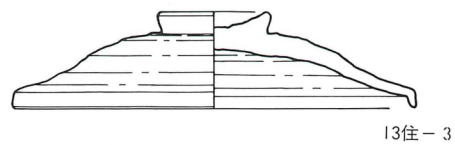
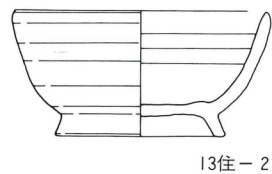
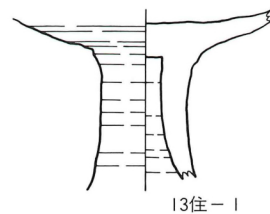
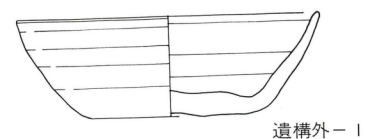
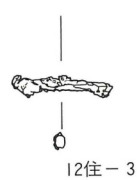
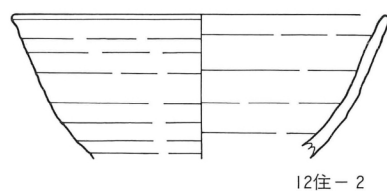
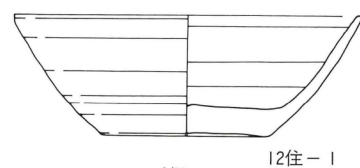
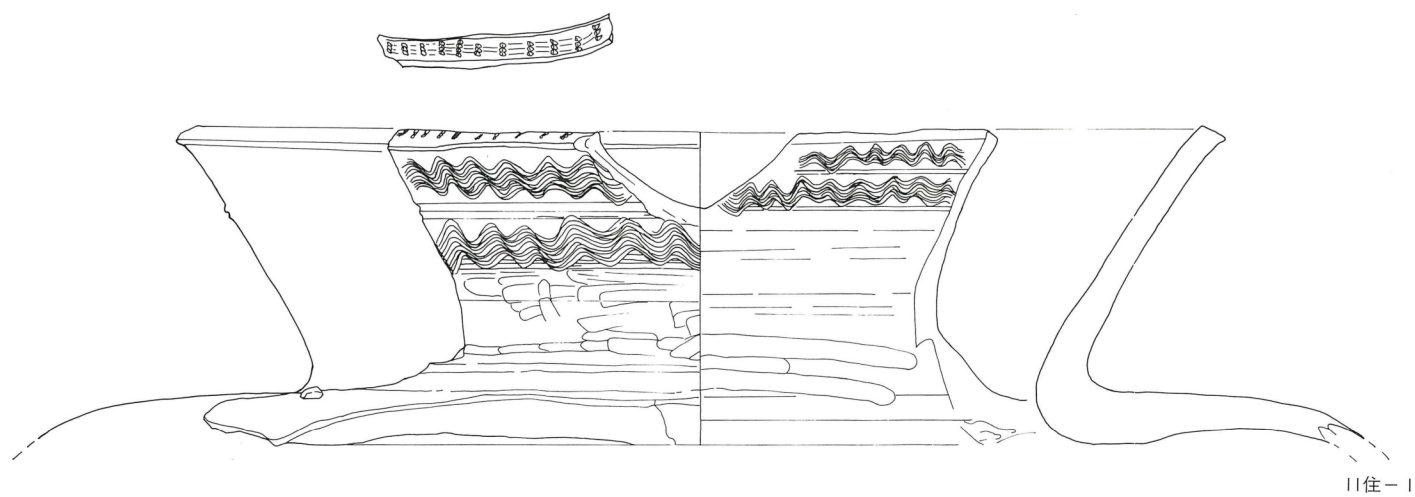
出土遺物はあまり無かったが、坏・皿などのほかに丸軋が発見されている。

掘立柱建物跡 (第43図)

E 1・E 2グリットに位置する。南北2間東西3間柱間は1.8mほどであるが、 P_2 と P_3 、 P_7 と P_8 の間の柱穴は確認できなかった。柱穴はほぼ円形か楕円形で、掘り込みはしっかりしていた。



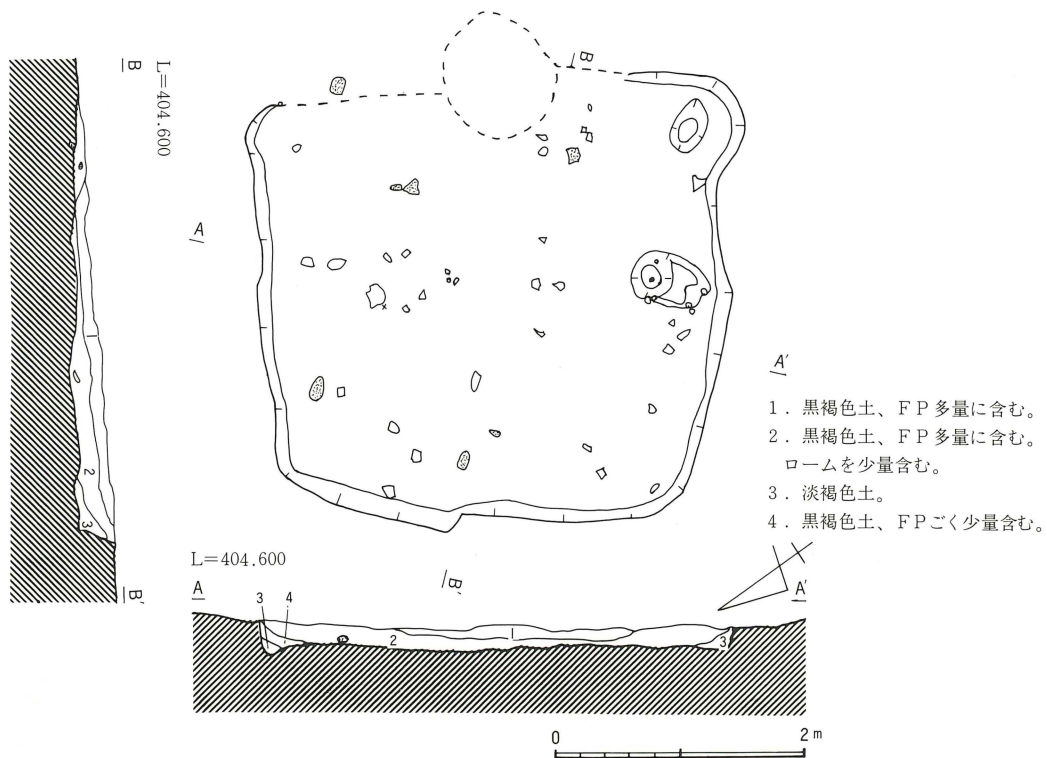
第40図 12号住居跡 (1/60) カマド (1/30)



13住-4



第41図 11、12、13号住居跡・遺構外出土遺物 (1/3)



第42図 13号住居跡 (1/60)

IV ま と め

1 弥生時代

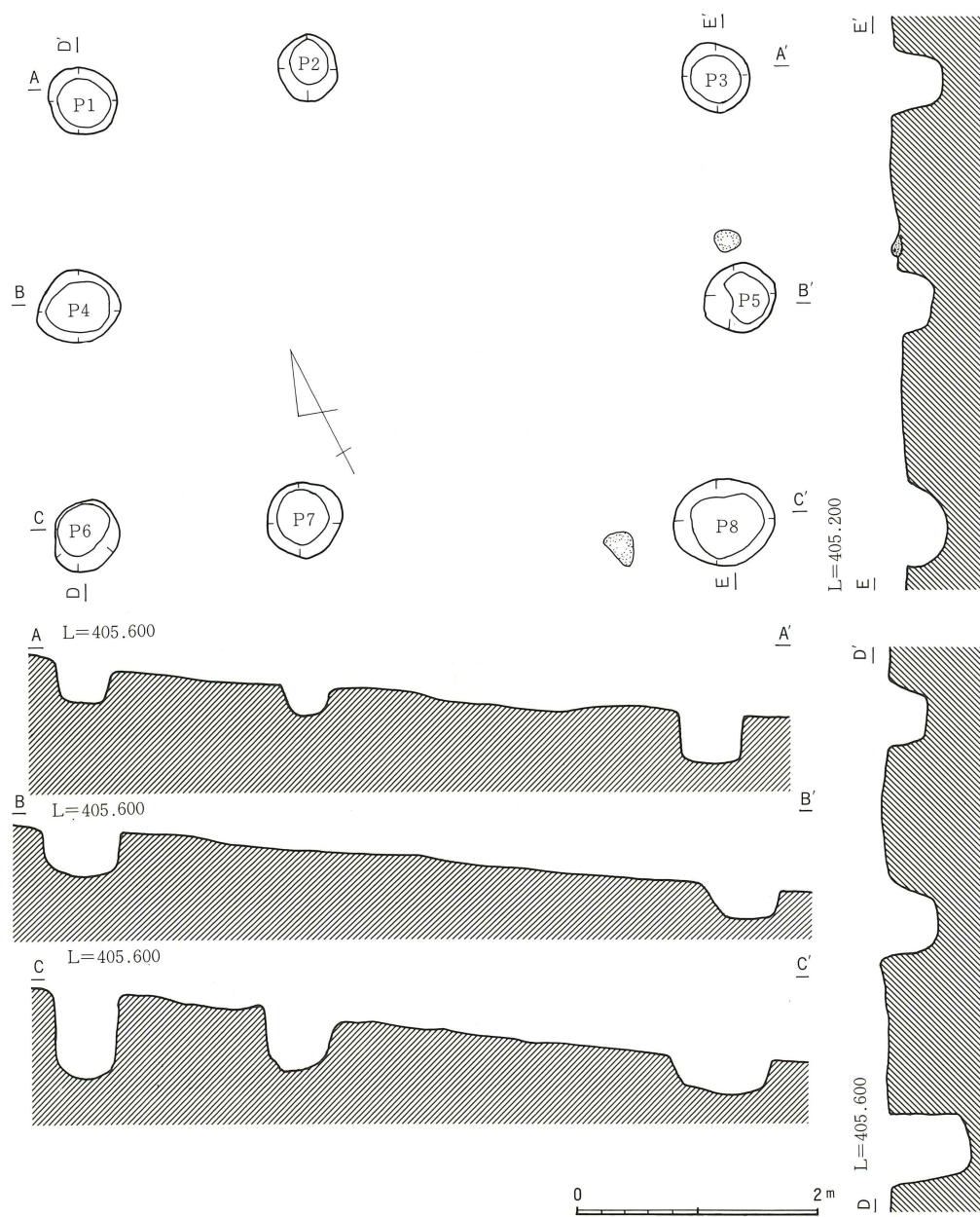
後期後半樽式期の住居跡を3軒検出した。いずれも長方形プランを呈し、主軸をほぼ南北にとった4本柱の住居跡である。21号住居跡では、廃棄直後に土壌が掘られて、床面直上にロームがのっていた。土壌は5基あったが、どのような性質のものかは今後の研究課題である。

出土遺物では22号住居跡の覆土から鉄鏃が発見されているのが注目される。

2 平安時代

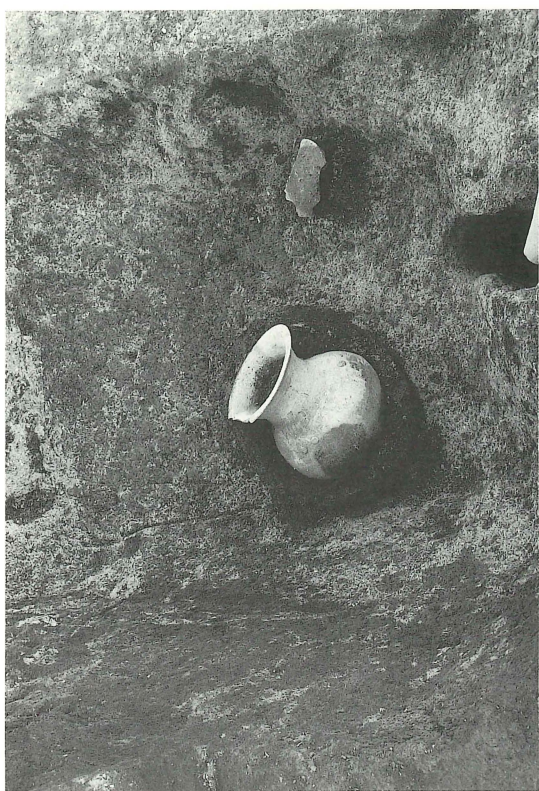
全部で13軒検出された。各住居跡とも出土遺物は多くないが、9号住居跡より三彩小壺の蓋が発見されたのと、3号住居跡と13号住居跡より丸軋が出土したのが注目される。

本遺跡の端で小沢川寄りの地点では、浅間B軽石が厚く堆積しており、その下は水田面とも考えられる粘土が水平に続いていた。畔などは確認できなかったため、水田遺構とは断定できなかったが、今後の調査をまちたい。

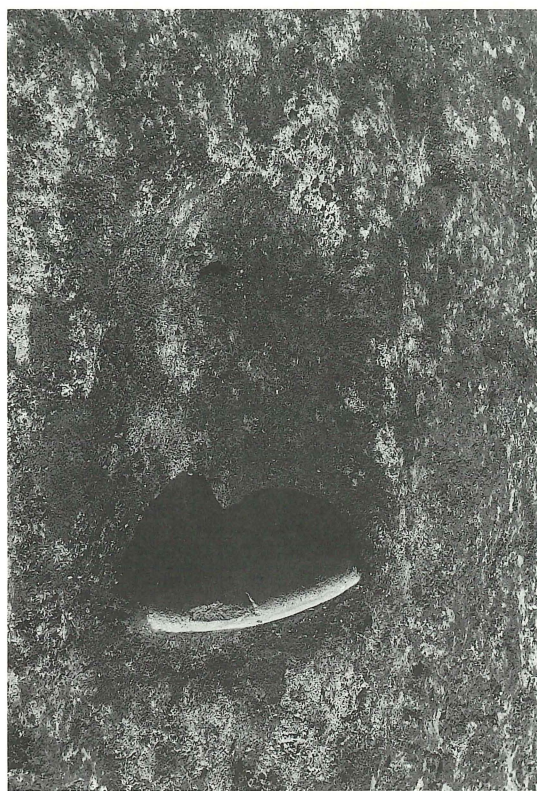


第43図 掘立柱建物跡

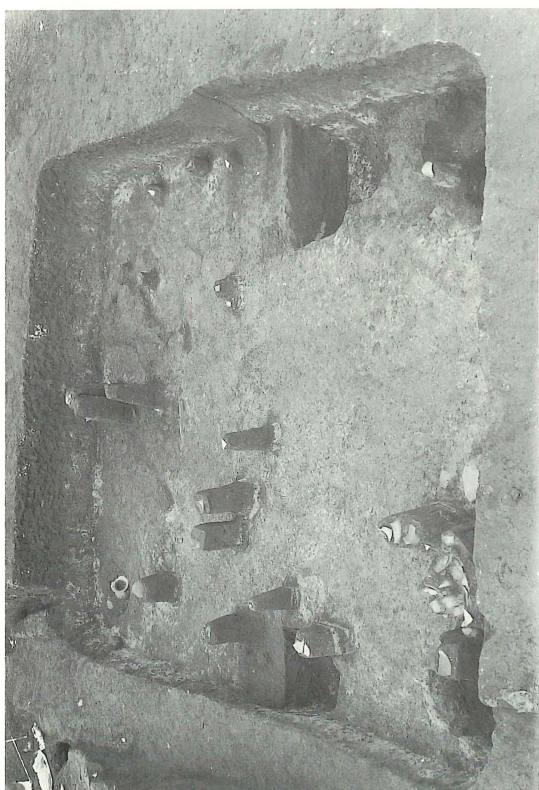
写 真 图 版



21号住居跡遺物出土状況



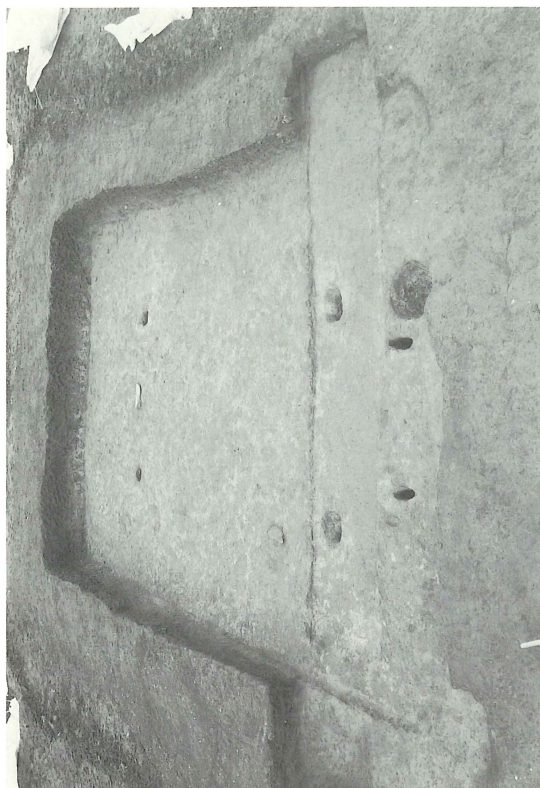
21号住居跡炉



21号住居跡遺物出土状況



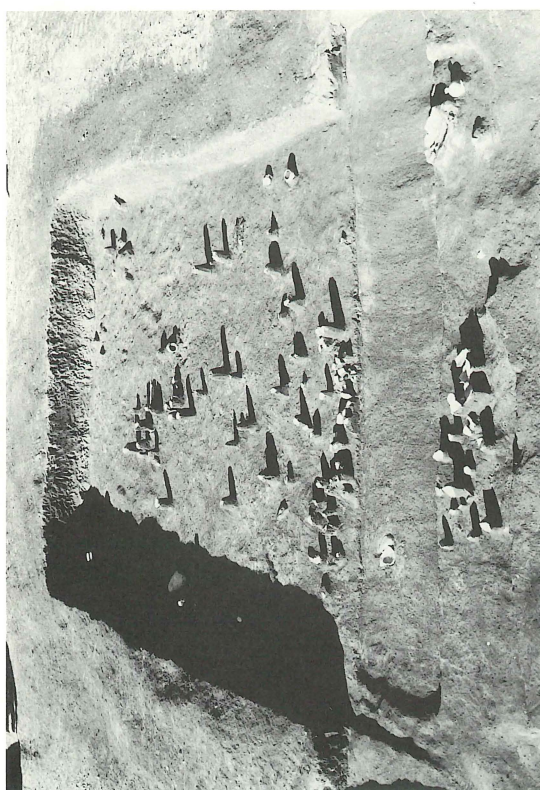
21号住居跡全景



22号住居跡全景



23号住居跡全景



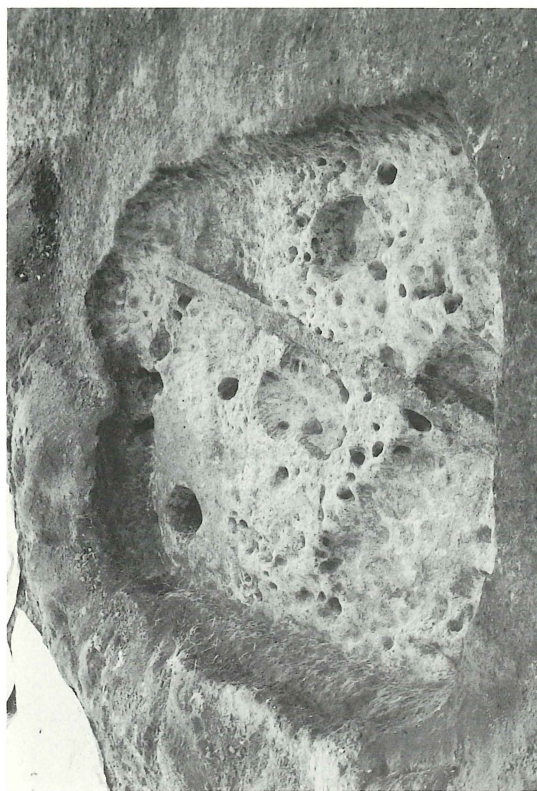
22号住居跡遺物出土状況



22号住居跡炉



1号住居跡全景



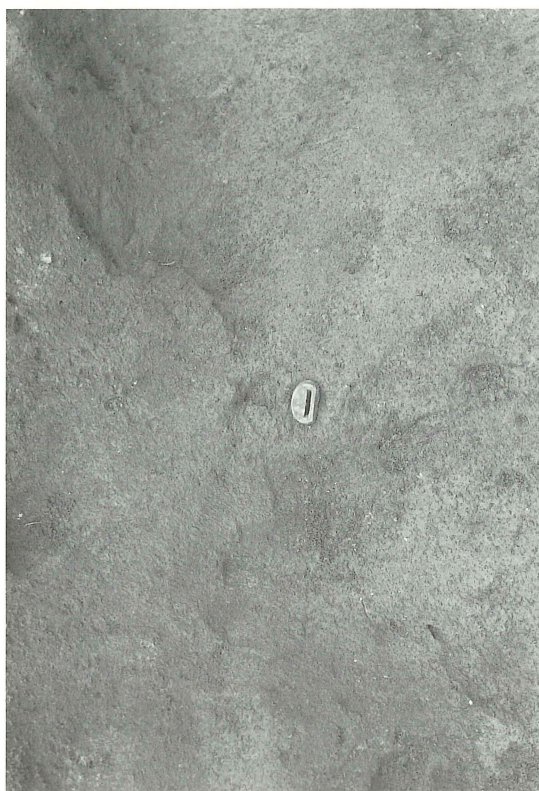
2号住居跡全景



1号住居跡遺物出土状況



2号住居跡遺物出土状況



3号住居跡遺物出土状況



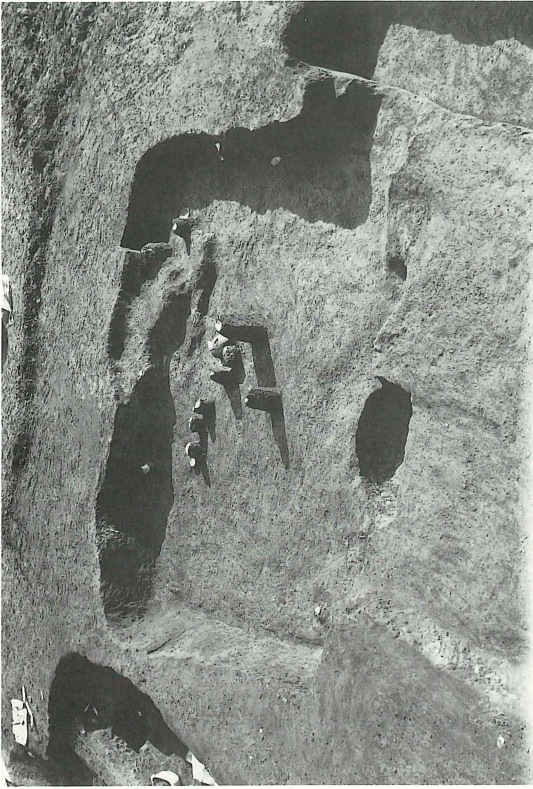
4号住居跡全景



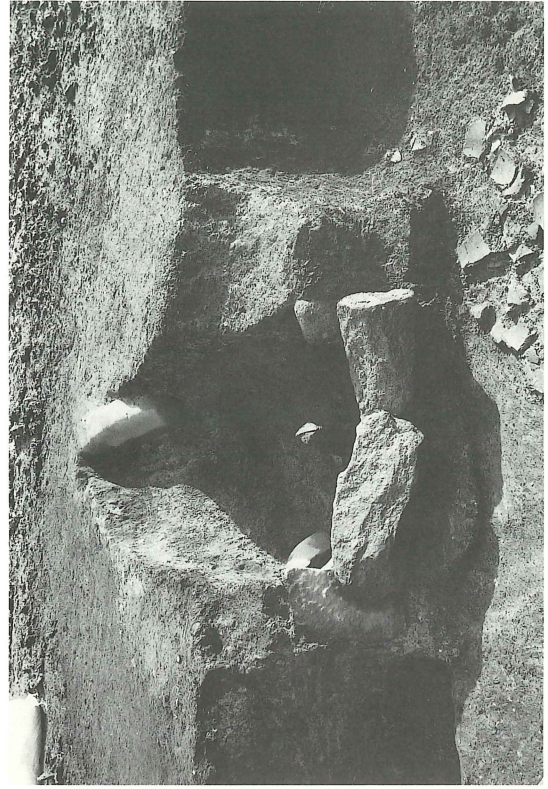
3号住居跡遺物出土状況



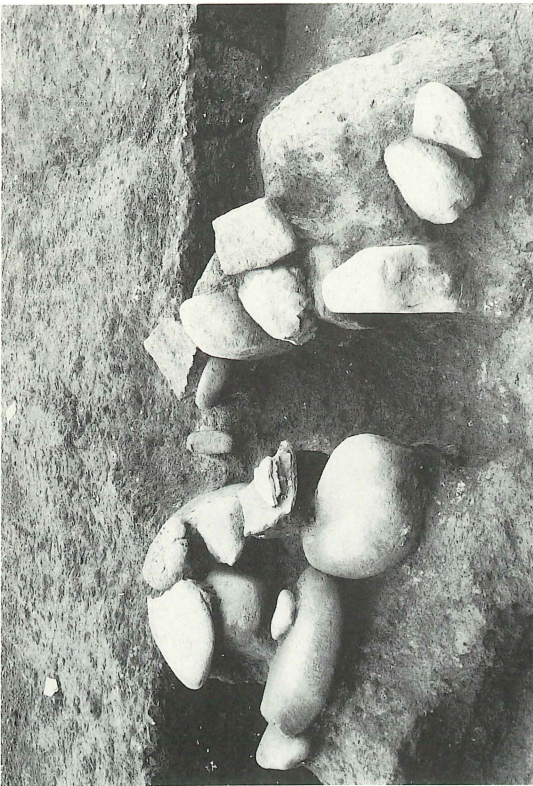
3号住居跡全景



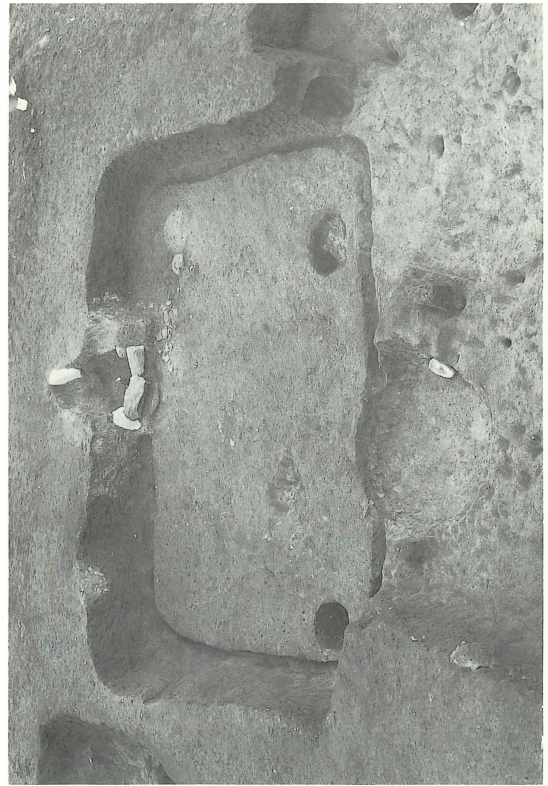
5号住居跡遺物出土状況



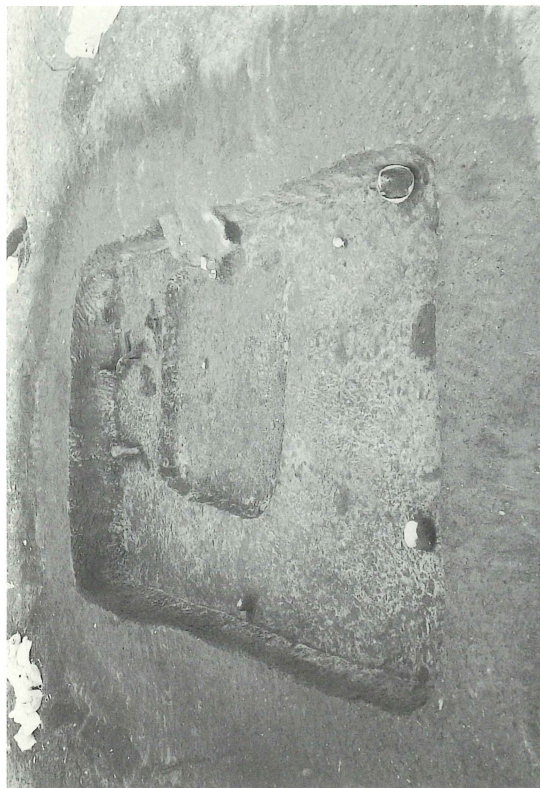
5号住居跡カマド



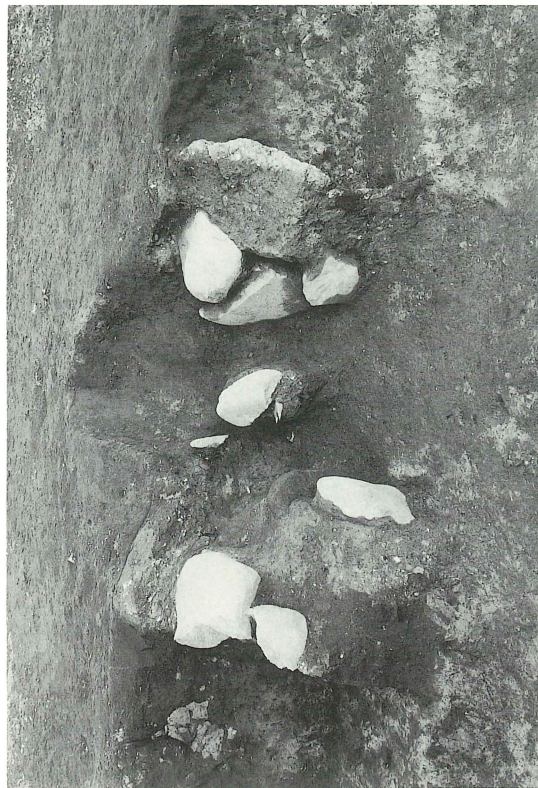
4号住居跡カマド



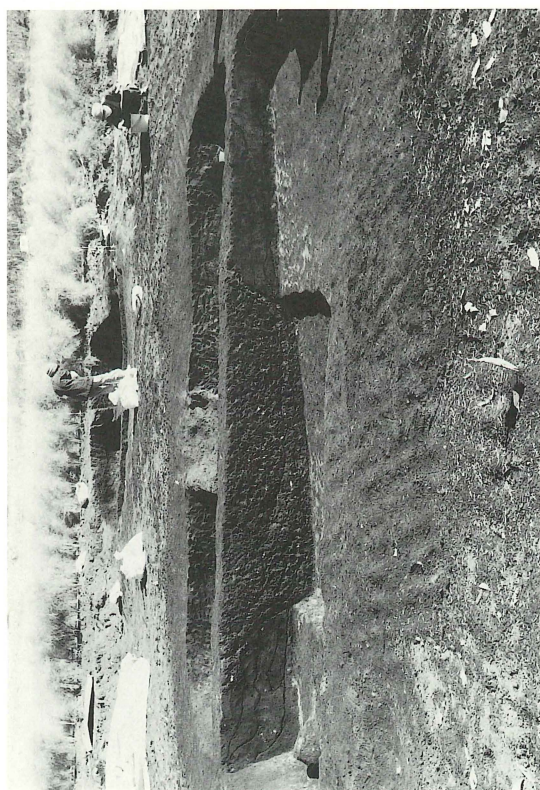
5号住居跡全景



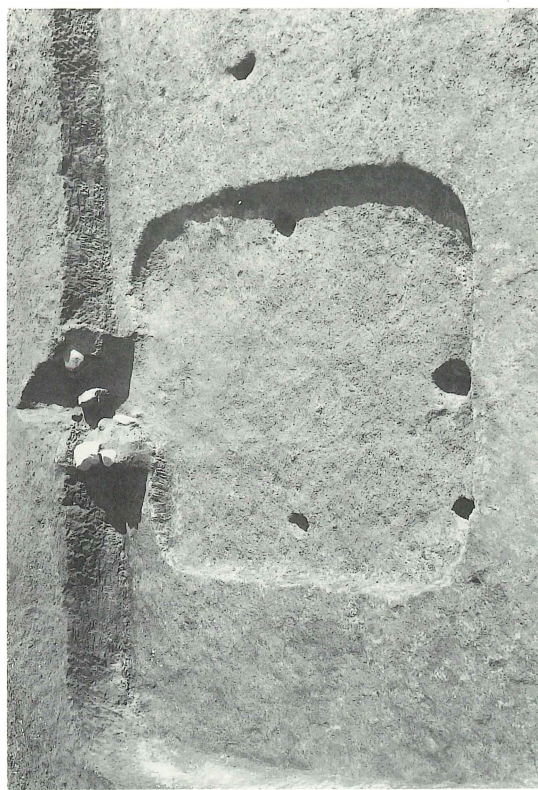
6号、23号住居跡全景



6号住居跡カマド



6号、23号住居跡セクション



6号住居跡全景



7号住居跡全景



9号住居跡遺物出土状況



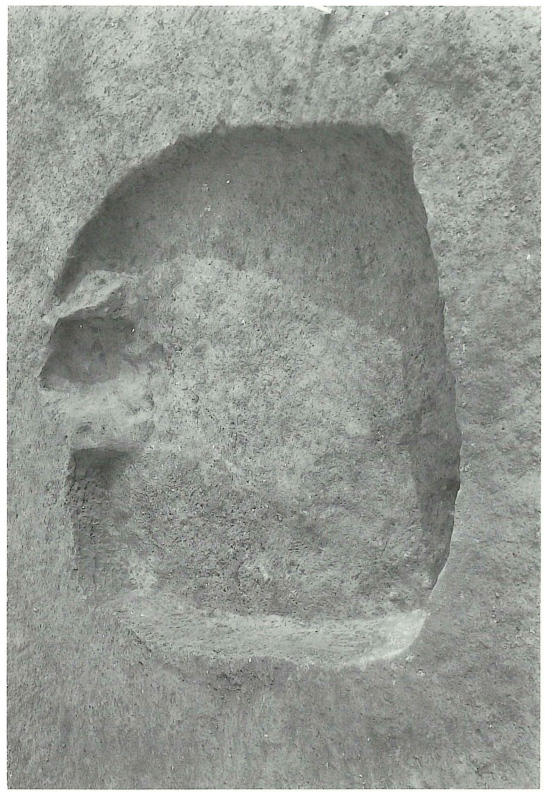
7号住居跡遺物出土状況



7号住居跡カマド



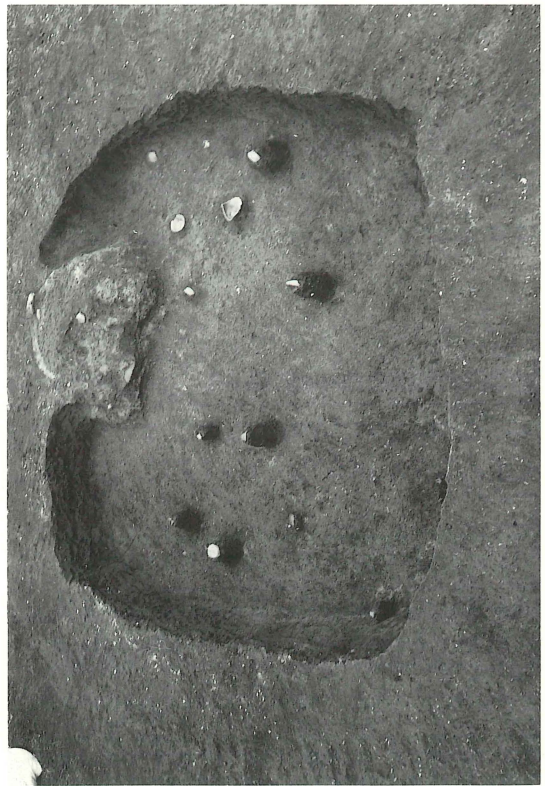
9号住居跡掘り方



10号住居跡全景



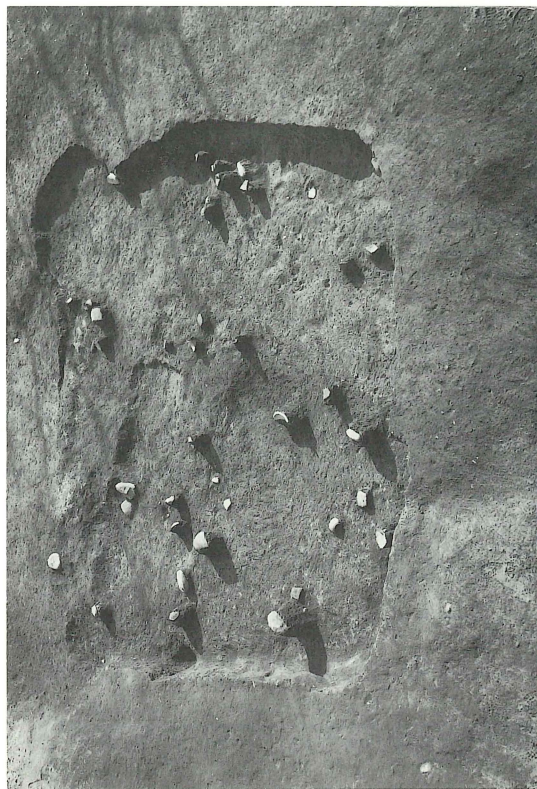
9号住居跡遺物出土状況



10号住居跡遺物出土状況



11号住居跡遺物出土状況



13号住居跡遺物出土状況



10号住居跡カマド



12号住居跡全景



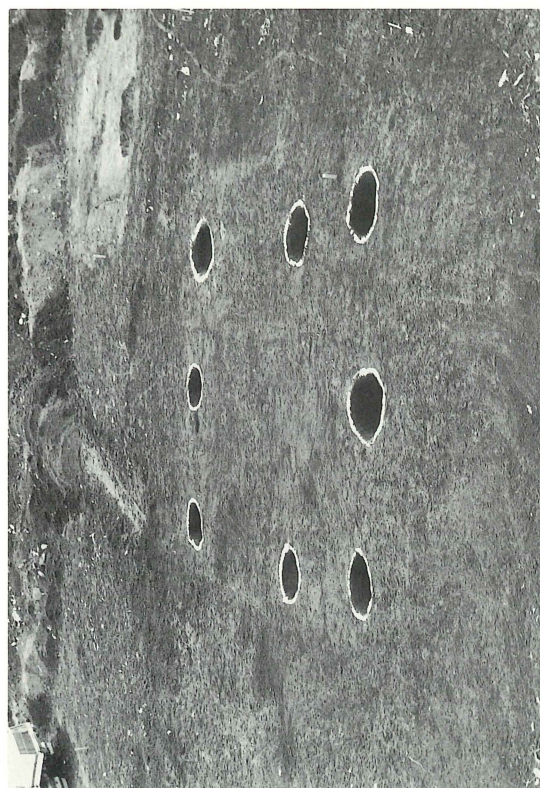
13号住居跡全景



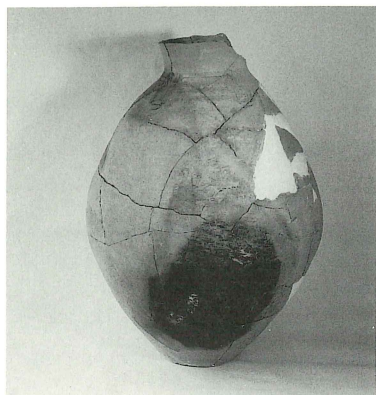
調査区全景



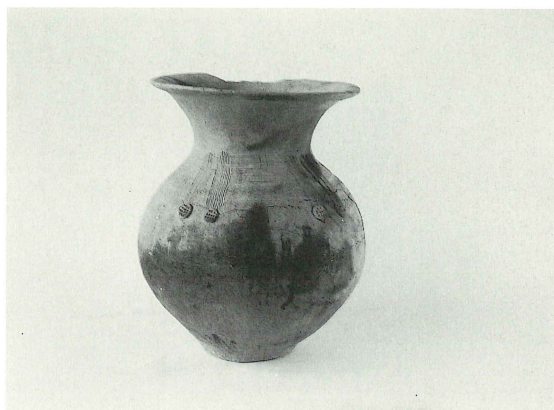
13号住居跡遺物出土状況



掘立柱建物跡



21住-1



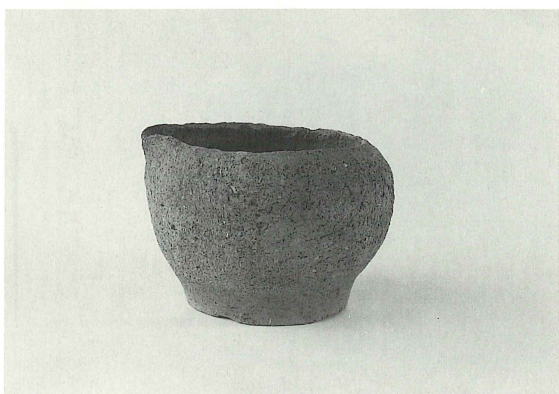
21住-2



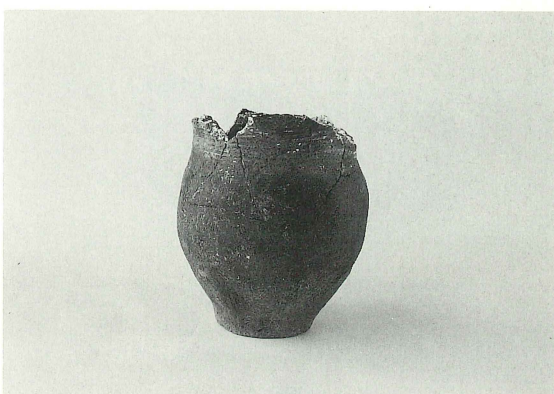
21住-7



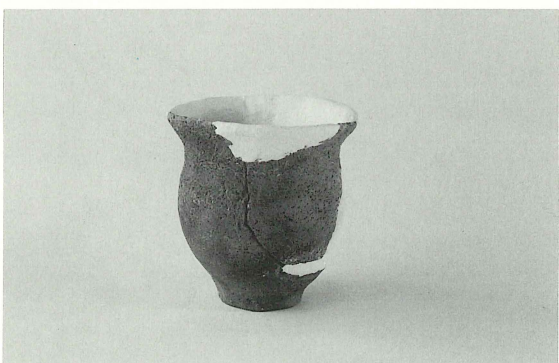
22住-1



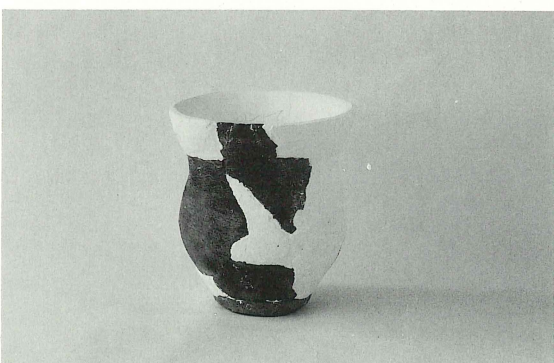
22住-3



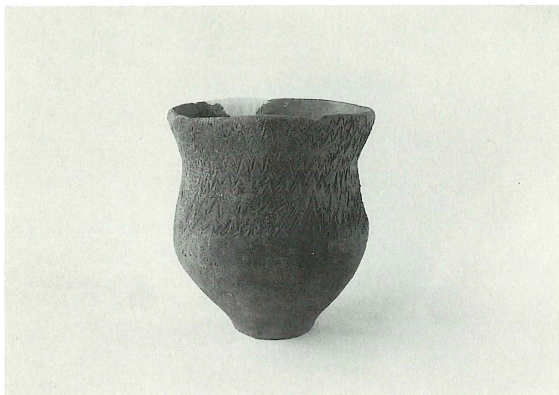
22住-4



22住-5



22住-6



22住-8



22住-7



22住-9



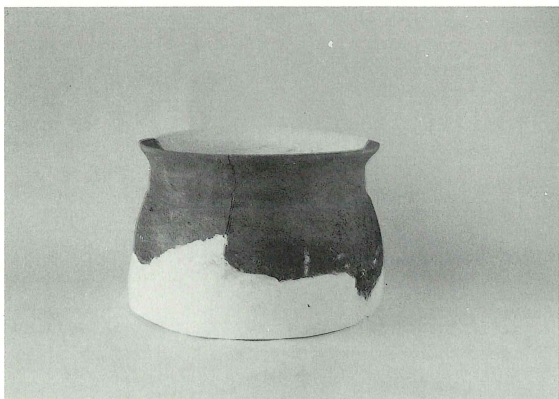
22住-10



23住-1



23住-2



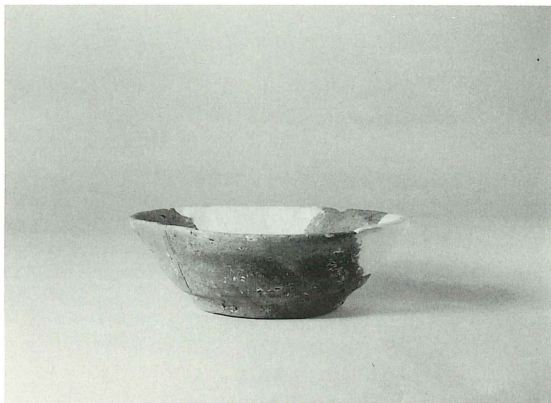
1住-1



1住-2



1 住-3



1 住-6



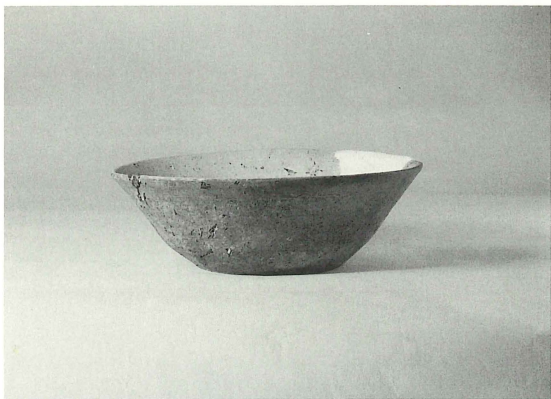
3 住-6



3 住-8



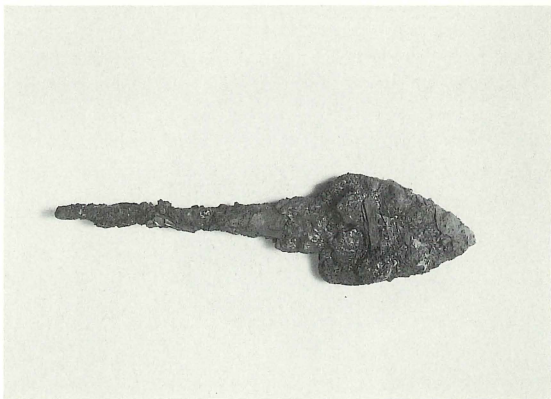
5 住-4



5 住-5



5 住-6



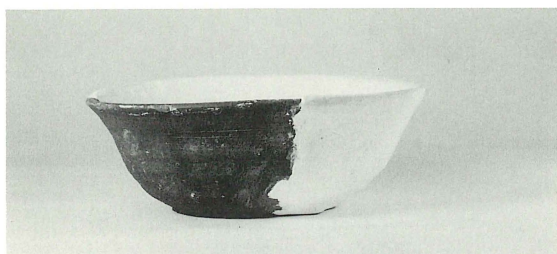
5 住-10



5 住一 8



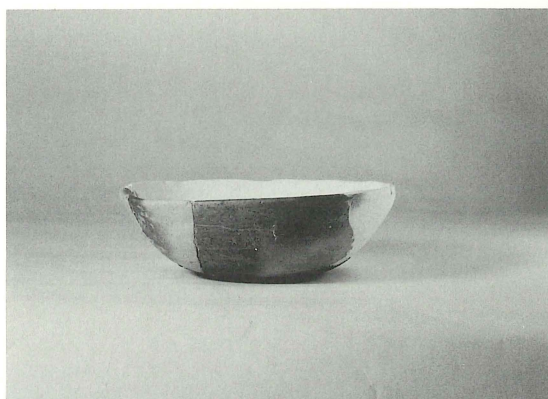
6 住一 1



7 住一 2



7 住一 4



7 住一 9



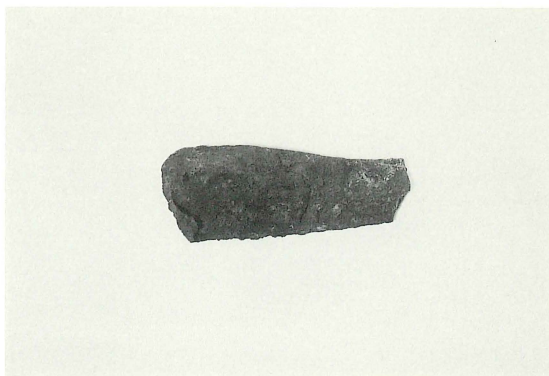
7 住一 8



9 住一 1



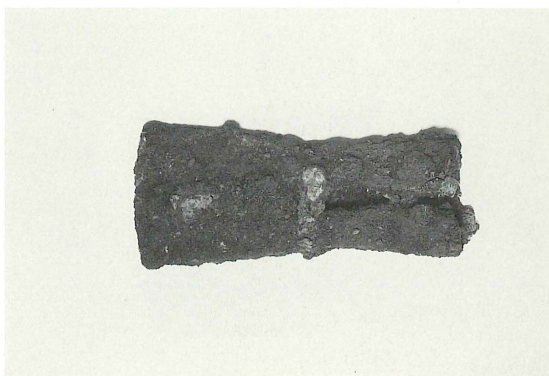
9 住一 2



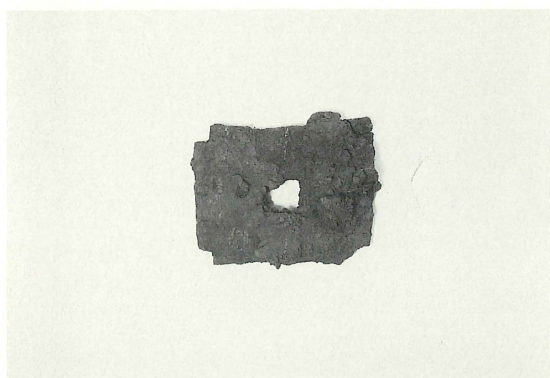
9 住一 4



9 住一 5



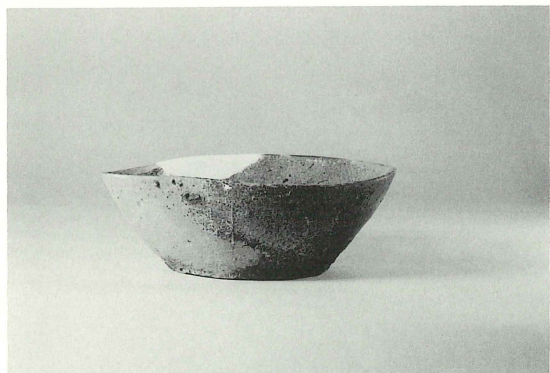
9 住一 6



9 住一 7



9 住一 9



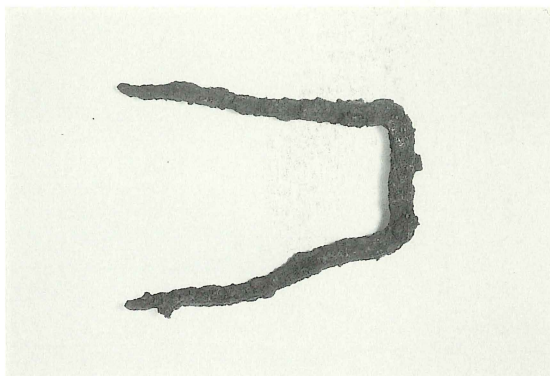
10 住一 1



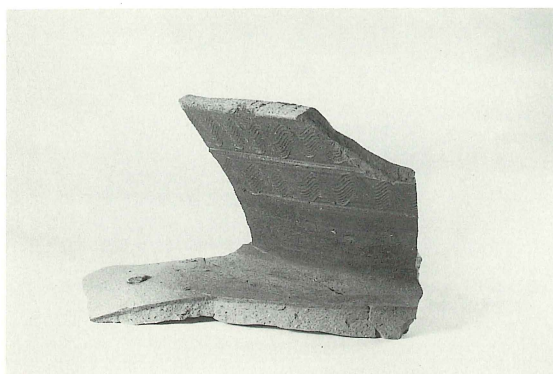
10 住一 2



10住-3



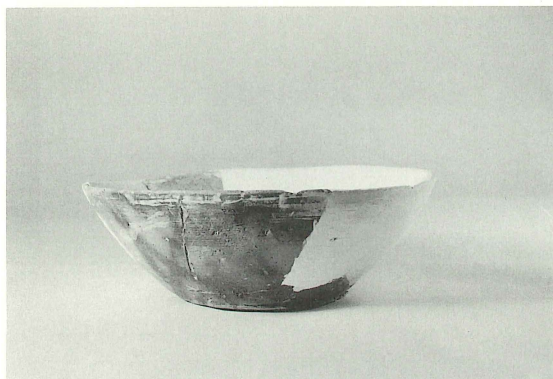
10住-5



11住-1



9住-8



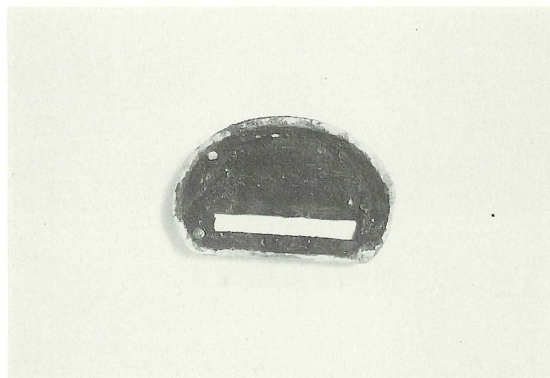
12住-1



13住-2



13住-3



13住-4

町田小沢遺跡

有限会社戸部組産業廃棄物中間処理施設
設置に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 平成2年3月22日

発行 平成2年3月26日

編集・発行 沼田市埋蔵文化財発掘調査団

沼田市西倉内町780

☎ (0278) 23-2111

印刷 朝日印刷工業株式会社

前橋市元総社町67

☎ (0272) 51-1212

